

RESEARCH REPORT ON A STUDY OF
VOLUNTEERS AT KOBE MARATHON 2016

『神戸マラソン 2016』
ボランティアに関する調査報告書

2017 年 1 月

兵庫体育・スポーツ科学学会
ひょうご地域スポーツ振興プロジェクト
『神戸マラソン 2016 ボランティア調査グループ』

神戸マラソン実行委員会

『神戸マラソン 2016』 ボランティアに関する調査報告書

概要

1. 目的

本調査は、「神戸マラソン 2016」におけるボランティア参加者の意識と活動状況を分析することを目的としている。特に、参加動機、参加の阻害要因、次回大会へのボランティア参加意図などを中心に分析を行い、今後のボランティアマネジメントに役立つ基礎資料としたい。

2. 内容

- 1) 属性：性別、年齢、職業、居住地
- 2) 本大会におけるボランティア活動について：
応募形態、担当業務、情報源、応募のきっかけ、参加動機、参加の阻害要因、ボランティア参加後の全体的な満足度、
- 3) 次回大会への参加意図とこれまでの活動状況：
来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図、これまでの神戸マラソンボランティア活動の経験
- 4) 全体的な満足度のクロス集計結果：
性別、年齢区分、応募形態、活動場所、参加回数、再参加意図
- 5) 再参加意図のクロス集計結果
性別、年齢区分、応募形態、活動場所、参加回数
- 6) 参加動機と再参加意図
- 7) 参加の阻害要因と再参加意図
- 8) 参加後の感想、意見、要望：自由記述

調 査 項 目

要因群	項 目	カテゴリー
属 性	回答者の属性	1.性別 2.年齢 3.職業 4.居住地
参加状況	情報源	1.友人 2.職場 3.学校 4.職場・学校以外の団体 5.新聞・雑誌 6.テレビ・ラジオ 7.地域の広報誌 8.ポスター・ちらし 9.インターネット 10.その他
	応募のきっかけ	1.自分の意志 2.身近な人のすすめ 3.学校 4.学校以外の所属団体 5.ランナーとしてエントリーしたがはずれた 6.その他
応募形態と 担当業務	応募形態	1.個人ボランティア 2.団体ボランティア(高校) 3.団体ボランティア(大学) 4.団体ボランティア(一般) 5.オフィシャルスポンサー
	担当業務	1.コース沿道整理 2.給水・給食 3.手荷物預かり・返却 4.給水・給食サービス(スタート) 5.更衣所管理 6.インフォメーション 7.ランナーサポート 8.案内誘導 9.ランナーサービス(フィニッシュ)
動 機	ボランティアの動機 (20項目)	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる
満 足	全体的な満足	1.満足していない 2.あまり満足していない 3.まあ満足している 4.非常に満足している
阻害要因	ボランティア参加の 阻害要因(23項目)	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる
来年の参加意図	ボランティア参加	1.はい 2.いいえ 3.わからない
これまでの参加状況	ボランティア参加	1.今回が初めて 2.2回目 3.3回目 4.4回目 5.5回目 6.6回目
活動後の感想	ボランティア活動後の 感想、意見、要望	自由記述

3. 対象

- 1) 母集団：「神戸マラソン 2016」で活動した登録ボランティア
- 2) 登録ボランティア数：5,950 名（エリアリーダー26 名、団体ボランティア 5,405 名、個人ボランティア 519 名）
※ 上記以外にも救護ボランティア、競技役員付補助員等 1,314 名が登録。
したがって、今大会のボランティア総数は、7,264 名。

4. 抽出方法

本調査は、ボランティア登録者数の約 10%のサンプルを算出した。そして、応募形態、担当業務それぞれを可能な限り約 10%の割合で抽出し、あらかじめ配布先を決定した。ボランティア活動終了後にアンケート調査票へ記入してもらった（オフィシャルスポンサーのみ後日回収）。

5. 回収結果

有効回答数：584 票

個人ボランティア：25 票

団体ボランティア（高校）：90 票、団体ボランティア（大学）：152 票、団体ボランティア（一般）：203 票

オフィシャルスポンサー：114 票

6. 分析方法

データの分析は単純集計とクロス集計を行い、有意差検定には χ^2 検定およびF検定を実施した。

7. 研究組織

1) 組織

兵庫体育・スポーツ科学学会 ひょうご地域スポーツ振興プロジェクト

2) 『神戸マラソンボランティア調査グループ』メンバー

松村浩貴、土肥隆、伊藤克広（以上：兵庫県立大学）、福田一儀（至誠館大学）、船越達也（大阪国際大学）、勝木洋子（神戸親和女子大学）、山口志郎（流通科学大学）

3) 連絡先

〒651-2197 神戸市西区学園西町 8-2-1

兵庫県立大学経営学部 松村浩貴研究室

Phone: 078-794-7095

Fax: 078-794-7129

E-mail: kouki@biz.u-hyogo.ac.jp

8. 調査協力

神戸マラソン実行委員会

結果の要約

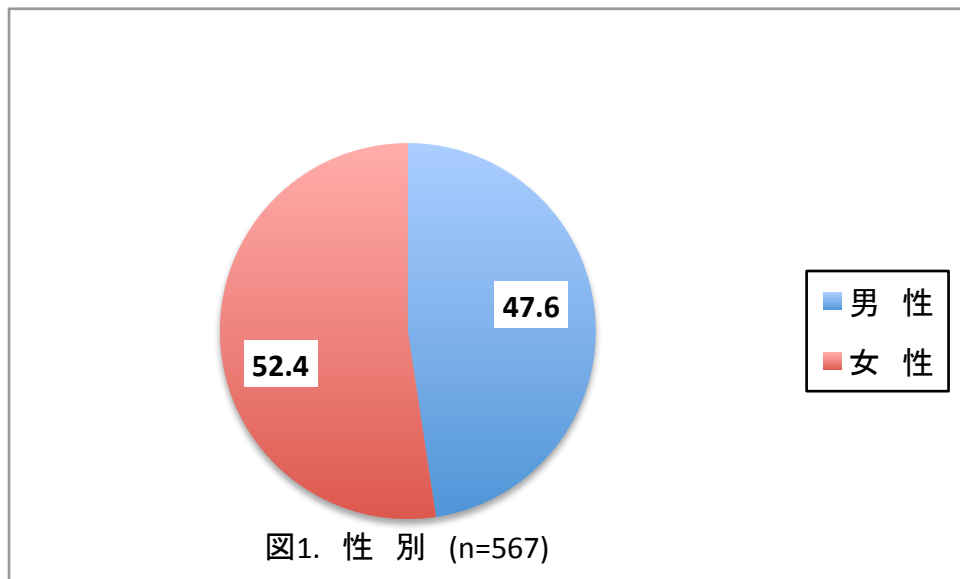
1. 性別は、やや女性の割合が高かった。年齢構成は、10 歳代～20 歳代の若年層が半数強を占めていた。また、50 歳以上の中高年層は 2 割強であった。職業は、「学生」が最も多く半数弱を占めた。居住地は、約 6 割が神戸市在住で、9 割以上が兵庫県在住の参加者であった。
2. 応募形態は、「団体ボランティア（一般）」が最も多く、次いで「団体ボランティア（大学）」「オフィシャルスポンサー」「団体ボランティア（高校）」「個人ボランティア」の順であった。
3. 担当業務は、「給水・給食」が最も多く、次いで「コース沿道整理」「手荷物預かり・返却」の順であった。
4. 情報源は、「学校」「職場」「職場・学校以外の団体」「友人」が多かった。マスコミによる情報よりも、学校や職場からの呼びかけや口コミでの情報が多かった。
5. 応募のきっかけは、「学校から」が最も多く、次いで「自分の意志」「学校以外の所属団体」「身近な人から」の順であった。ボランティアの約 3 割が自発的な参加者であり、周囲からの勧めがきっかけとなり参加している者が 7 割程度であった。
6. ボランティアへの参加動機は、「日常では得られない経験ができる」が最も高く、次いで「人のために役立ちたい」「職場、学校の活動の一環」「地域に貢献したい」「神戸マラソンの成功に役立ちたい」が高い値を示した。一方、「仕事に役立つ」「知人からの勧誘・紹介」は低い値であった。「非日常」「貢献」など、非日常の経験ができることや神戸マラソンの成功、地域に貢献したいという反応が高かった。
7. ボランティア参加の阻害要因は、「ボランティア以外の用事があるため」が最も高く、次いで「仕事・家事・勉強が忙しかったため」「活動時間が長い」「家族・友人と過ごす時間が忙しかったため」の順であった。ボランティア以外の用事で忙しいことや活動時間が長いことが、ボランティアの参加を妨げる要因になっていることが明らかになった。
8. 今回のボランティア全体を通しての満足度は、「非常に満足している」が 29.7%、「まあ満足している」が 62.7%、「あまり満足していない」が 5.4%、「満足していない」が 2.1%であった。「非常に満足している」と「まあ満足している」を足した値が 9 割以上であったことから、ボランティア参加者は概ね満足しているという結果であった。
9. 来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図は、参加したい人が半数弱であった。
10. 神戸マラソンボランティア活動の経験は、「今回が初めて」は 51.5%、「2 回目」が 18.8%、「3 回目以上」が 29.5%であった。ほぼ半数が初めての参加者であり、ほぼ半数が複数回の参加者であった。
11. 「全体的満足のカロス集計」
 - 1) 満足と性別は、性別で大きな違いはみられなかった。
 - 2) 満足と年齢区分は、若年層において満足している割合は最も少なかった。60 歳以上の参加者は満足しているが、非常に満足している人は少ないことが明らかになった。
 - 3) 満足と応募形態は、「団体ボランティア（高校）」「オフィシャルスポンサー」では、非常に満足している者の割合が多く、「個人ボランティア」は非常に満足している者の割合が少ないことが明らかになった。

- 4) 満足と活動場所は、活動場所を「コース沿道」と「コース以外」に分けた場合、「コース沿道」の方が非常に満足している者の割合が多いことが明らかになった。
 - 5) 満足と参加回数は、3回以上参加している者は、非常に満足している割合は低いが、まあ満足している割合は高いことが明らかになった。
 - 6) 満足と再参加意図は、次も参加したいと考えている参加者は満足度も高く、もう参加したくないと考えている参加者は満足度も低いことが明らかになった。
12. 「再参加意図のクロス集計」
- 1) 再参加意図と性別は、性別で大きな違いはみられなかった。
 - 2) 再参加意図と年齢区分は、年齢の高い層が年齢の低い層よりまた参加したいと思っている人が多いことが明らかになった。
 - 3) 再参加意図と応募形態は、「団体ボランティア（一般）」「個人ボランティア」「オフィシャルスポンサー」で再参加意図をもった人が多かった。
 - 4) 再参加意図と活動場所は、「コース沿道」と「コース以外」で分類した場合、「コース以外」の方が、参加意図が高いことが明らかになった。
 - 5) 再参加意図と参加回数は、参加回数が多くなるにしたがい、再参加意図も大きくなること
が示され、参加回数の多い参加者は次回も参加する意志が強いことが明らかになった。
13. 「参加動機と再参加意図」
- 次回も参加したいと思っている参加者は、どのような動機をもって参加しているのか
を調べるために、動機と再参加意図を集計した。20項目中17項目において有意差がみられ、
ほとんどの項目で「参加したい」が最も高い値を示し、「参加したくない」が最も低い値を示
した。顕著な差がみられた項目は、「他人と協力して目的を達成したい」「神戸マラソンの成功
に役立ちたい」「地域に貢献したい」「社会的視野が広がる」「社会に貢献したい」「ボラン
ティアに興味がある」「人のために役立ちたい」「人との出会い・交流がある」であった。再びボ
ランティアに参加したいと思っている人の動機の特徴は、「神戸マラソン」「ボランティ
アへの興味」「貢献」「協力」「交流」がキーワードとして挙げられる。
14. 「阻害要因と再参加意図」
- 次回も参加したいと思っている人と参加したくないと思っている人が、ボランティ
ア参加の阻害要因にどのような違いがあるのかを調べるために集計を行った。ほとんどの
項目で「参加したくない」が「参加したい」よりも高い値を示し、23項目中21項目で有意差
がみられた。顕著な差がみられた項目は、「休憩が少ない」「神戸マラソンボランティアに興
味がない」「お金を費やす価値が考えられない」「活動時間が長い」「やりたい活動ができない」
「ボランティアにストレスを感じる」であった。参加したくない人は、活動時間が長く、
休憩も少ない、ボランティア活動に意義を見出すことができない等の要因が、参加の妨
げになっていることが明らかになった。

サンプルの属性

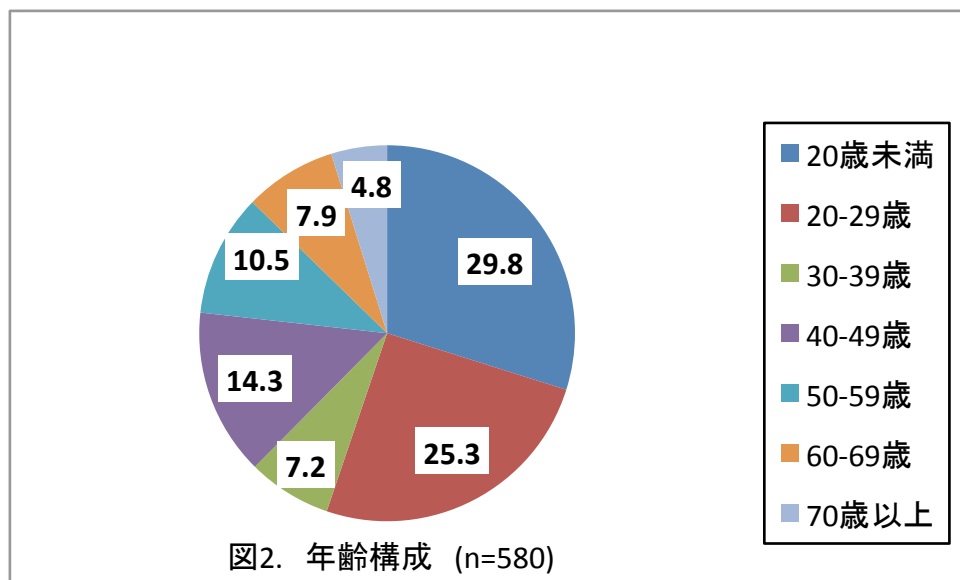
1) 性別

性別は、「男性」が 47.6%、「女性」が 52.4%であり、やや女性の割合が高かった（図 1）。



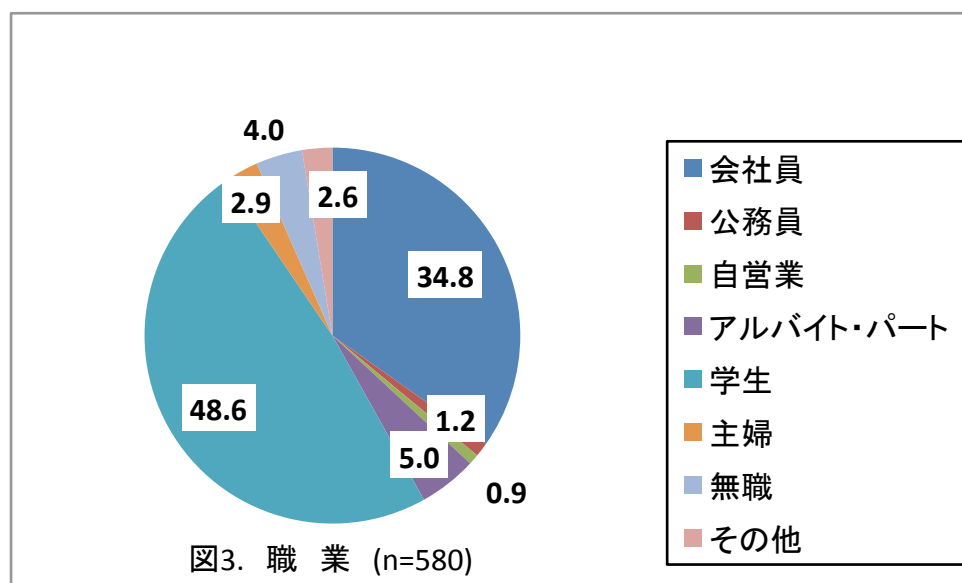
2) 年齢構成

年齢構成は、「20歳未満」が 29.8%と最も多く、次いで「20歳代」が 25.3%、「40-49歳」が 14.3%であった（図 2）。また、10歳代～20歳代の若年層が半数強（55.1%）を占めていた。一方、50歳以上の中高年層は 23.2%であった。



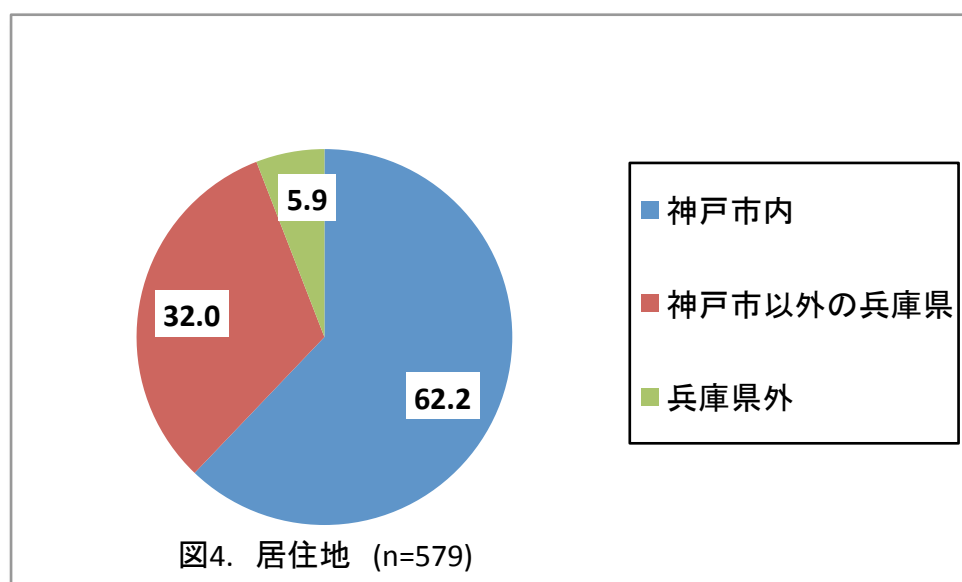
3) 職業

職業は、「学生」が 48.6%と最も多く、次いで「会社員」が 34.8%、「アルバイト・パート」が 5.0%、「無職」が 4.0%であった（図 3）。また、高校、大学からの学生ボランティアの参加者が半数弱を占めた。



4) 居住地

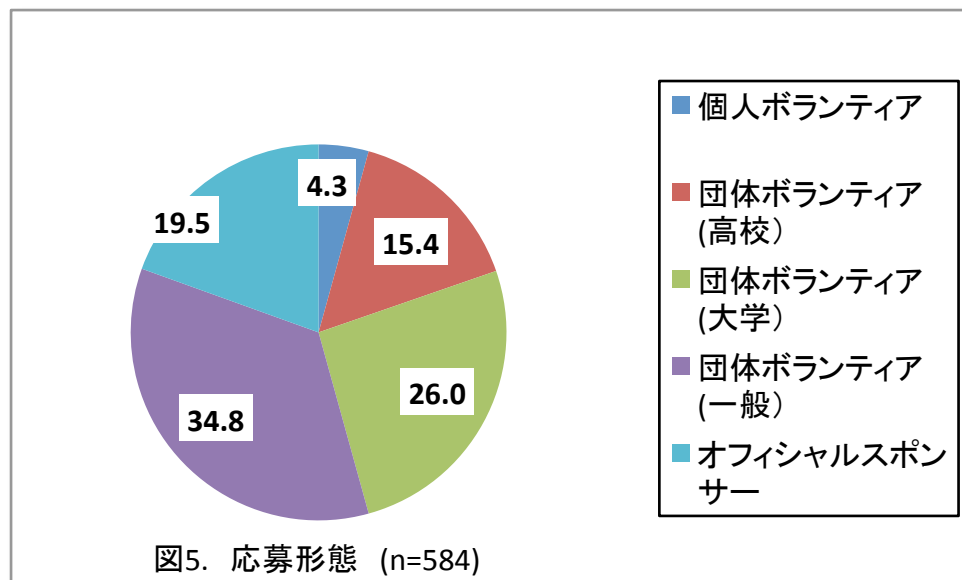
居住地は、「神戸市内」が 62.2%と最も多く、次いで「神戸市以外の兵庫県」が 32.0%、「兵庫県外」が 5.9%であった（図 4）。6 割強が神戸市在住であり、9 割以上（94.2%）が兵庫県在住の参加者であった。



2. 本大会におけるボランティア活動について

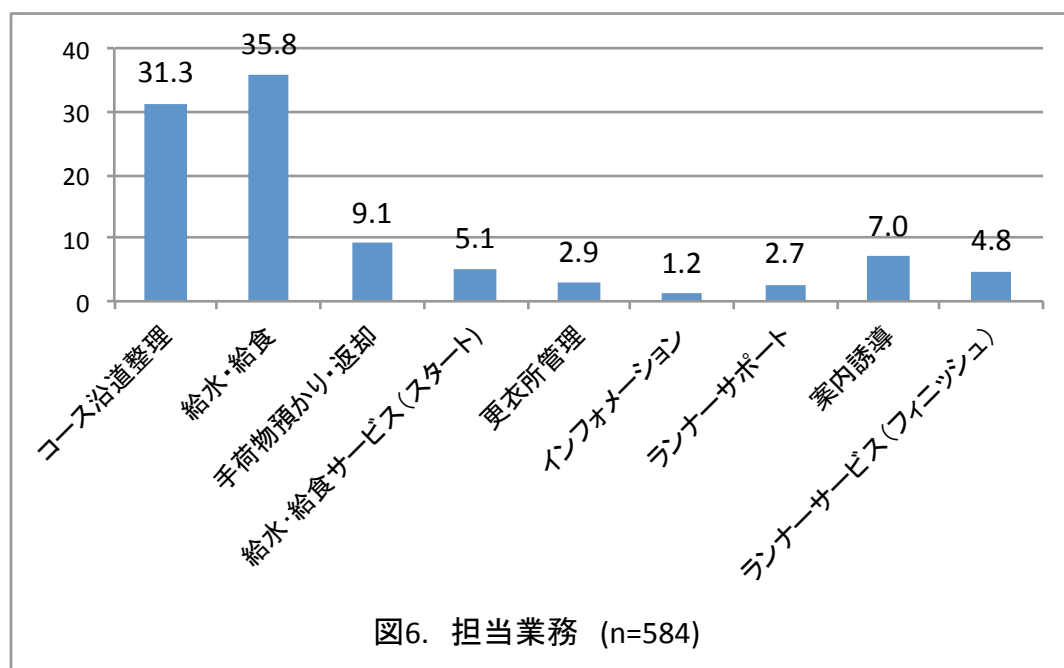
1) 応募形態

応募形態は、「団体ボランティア（一般）」が 34.8%と最も多く、次いで「団体ボランティア（大学）」が 26.0%、「オフィシャルスポンサー」からのボランティアが 19.5%、「団体ボランティア（高校）」が 15.4%、1-4 名の登録者の「個人ボランティア」が 4.3%の順であった（図 5）。



2) 担当業務

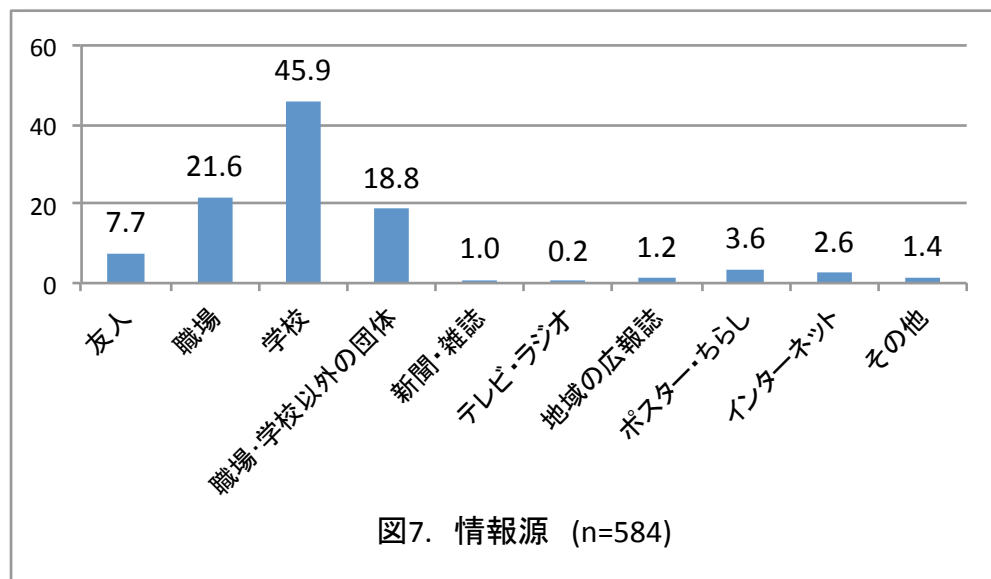
担当業務は、「給水・給食」が 35.8%と最も多く、次いで「コース沿道整理」が 31.3%、「手荷物預かり・返却」が 9.1%の順であった（図 6）。マラソンボランティアの活動場所は「コース沿道での活動」と「コース以外での活動」に大別される。「コース沿道での活動」は 67.1%、「コース以外での活動」は 32.9%であり、「コース沿道での活動」の割合が多かった。



3) 情報源

「ボランティアの情報を何で知りましたか？」の問いに、当てはまる番号すべてに○をつけてもらった（複数回答）。「学校」が45.9%と最も多く、次いで「職場」が21.6%、「職場・学校以外の団体」が18.8%、「友人」が7.7%の順であった（図7）。

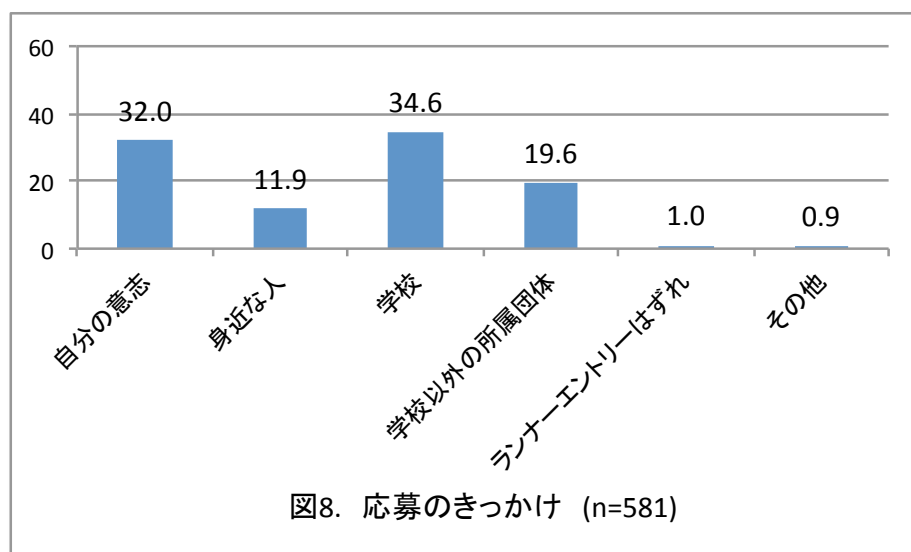
新聞・雑誌、広報誌、テレビ・ラジオ、インターネットなどのマスコミによる情報が少なかったことから、これらのマスコミによる情報よりも、学校や職場からの呼びかけや口コミでの情報が多かったことがうかがえる。



4) 応募のきっかけ

「ボランティアの応募のきっかけは何ですか？」の問いに、当てはまるもの1つを回答してもらった。「学校から」が34.6%と最も多く、次いで「自分の意志」が32.0%、「学校以外の所属団体」が19.6%、「身近な人から」が11.9%の順であった（図8）。

ボランティアの約3割が自発的な参加者であり、周囲からの勧めがきっかけとなり参加している者が7割程度であった。学生ボランティアの多くは、学校（教員など）から勧められて参加したことが推察できる。また、「ランナーとしてエントリーしたがはずれた」が1.0%と少なかった。



5) ボランティアへの参加動機

ボランティアに参加した動機 20 項目を「1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる」の 4 つの中から回答してもらった。平均値が最も高かったのは「日常では得られない経験ができる」が 3.27 であり、次いで「人のために役立つ」が 3.15、「職場、学校の活動の一環」が 3.08、「地域に貢献できる」が 3.06、「神戸マラソンの成功に役立つ」が 3.06 で高い値を示した。一方、「仕事に役立つ」は 2.57 であり、「知人からの勧誘・紹介」は 2.66 と低い値を示した（図 9）。

この結果から、「非日常」「貢献」など、非日常の経験ができることや神戸マラソンの成功、地域に貢献したいという反応が高かった。一方で、「キャリア」に関する項目は低い値を示した。

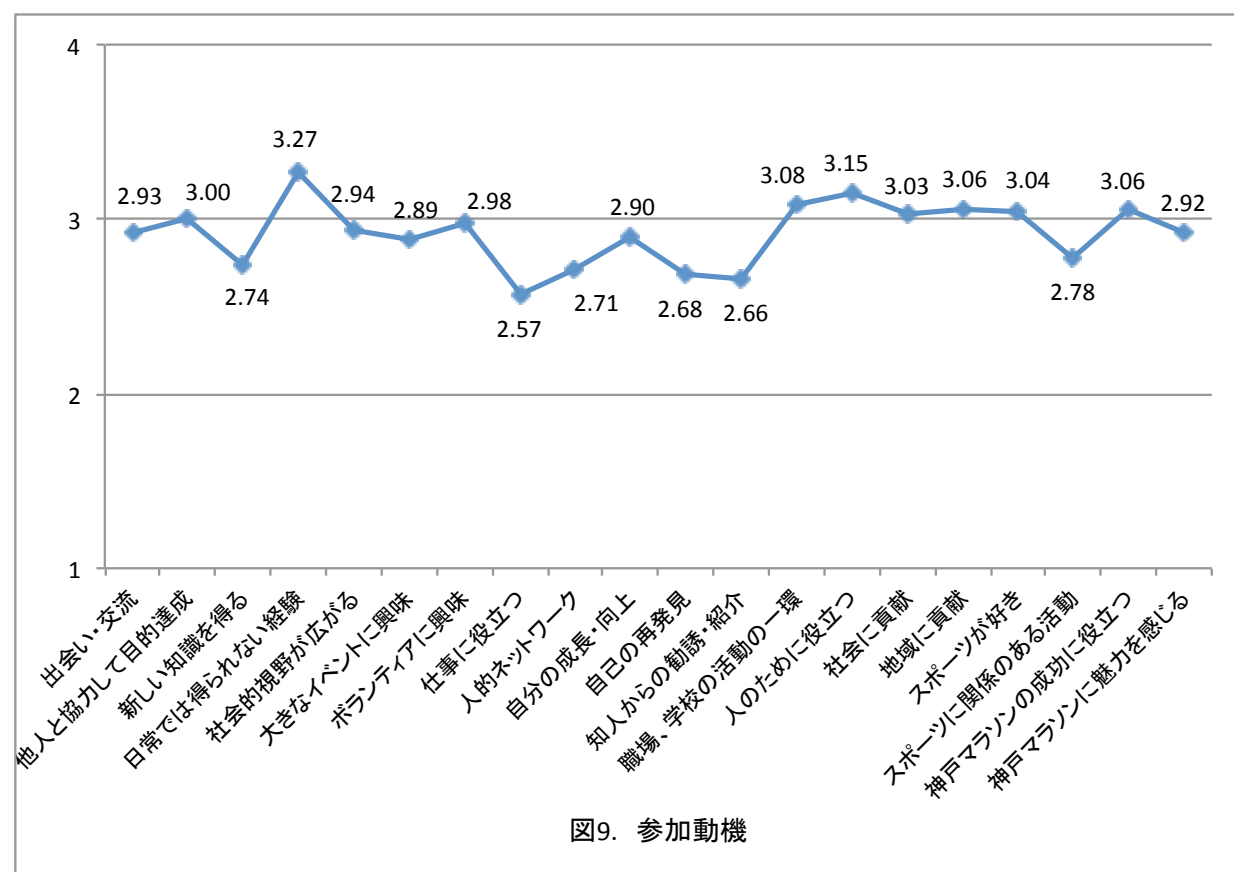
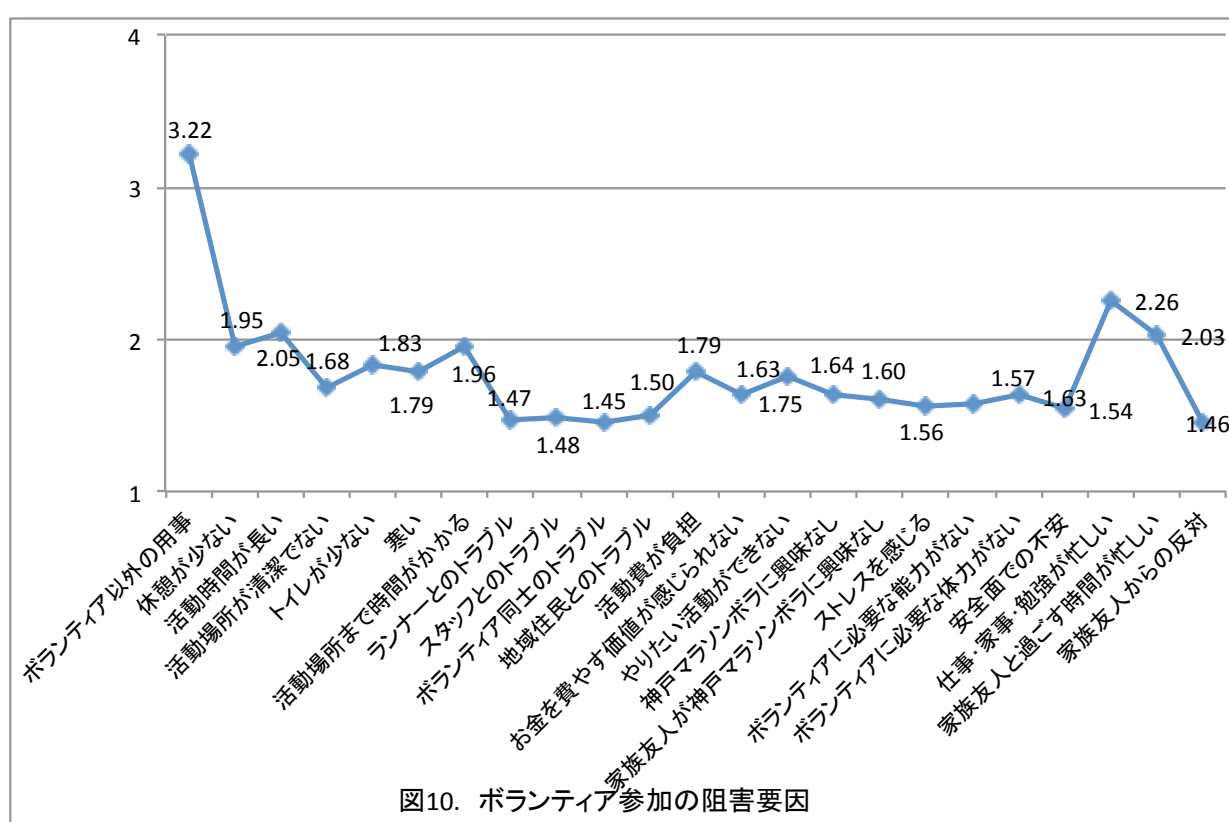


図9. 参加動機

6) ボランティア参加の阻害要因

ボランティア参加の阻害要因 23 項目について「1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる」の 4 つの中から回答してもらった。回答者には参加の阻害要因を「もし来年以降、神戸マラソンのボランティア参加を取りやめるとしたら、どのような原因が考えられるか」という聞き方をした。その結果、平均値が最も高かったのは「ボランティア以外の用事があるため」が 3.22 で、次いで「仕事・家事・勉強が忙しいため」が 2.26、「活動時間が長い」が 2.05、「家族・友人と過ごす時間が忙しいため」が 2.03 であった。それ以外の項目は、2 ポイント未満で全体的に低い値であった（図 10）。

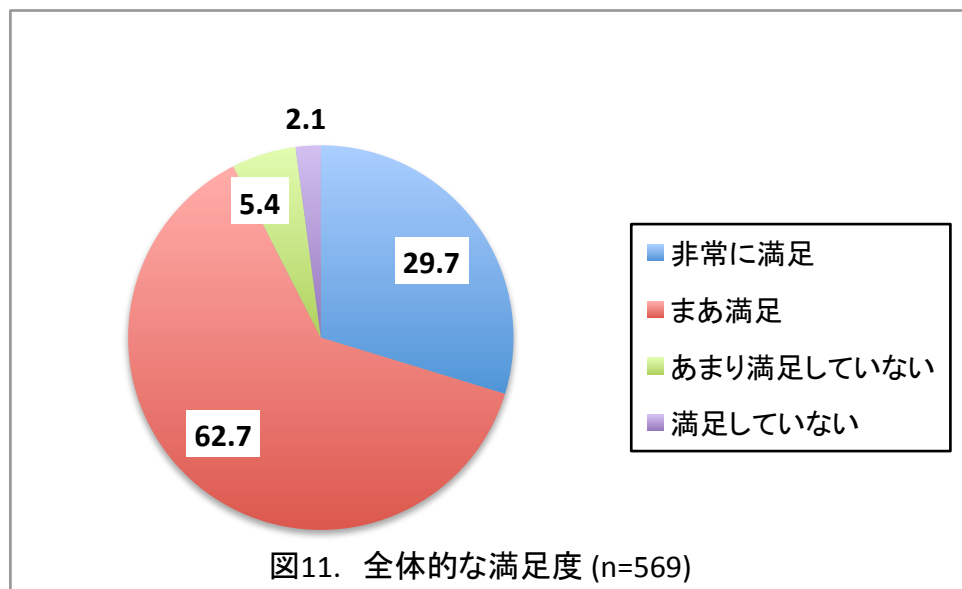
この結果から、活動中の出来事や活動中の不安というよりも、仕事・家事・勉強を含むボランティア以外の用事で忙しいことや活動時間が長いことが、ボランティアの参加を妨げる要因になっていることが明らかになった。



7) 全体的な満足度

今回のボランティア全体を通しての満足度を「非常に満足している」「まあ満足している」「あまり満足していない」「満足していない」の4つの中から回答してもらった。「非常に満足している」が29.7%、「まあ満足している」が62.7%、「あまり満足していない」が5.4%、「満足していない」が2.1%であった（図11）。

「非常に満足している」と「まあ満足している」を足した値が92.4%であったことから、ボランティア参加者は概ね満足しているという結果であった。しかし、「まあ満足している」の方が多かったことから、「非常に満足している」と感じる参加者をさらに増やすことが重要であると思われる。

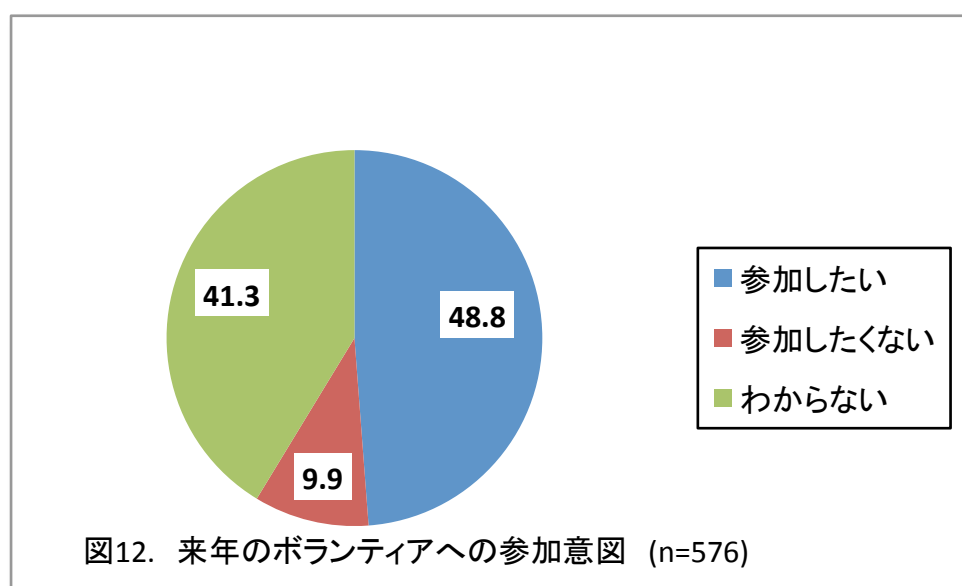


3. 次回大会への参加意図とこれまでの活動状況

1) 来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図

来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図を「1.はい 2.いいえ 3.わからない」の3つの中から回答してもらった。「はい」＝「参加したい」が48.8%、「いいえ」＝「参加したくない」が9.9%、「わからない」が41.3%であった（図12）。

昨年の調査では、「参加したい」が58.7%であったが、今回の調査では48.8%となっており、参加の意図がある人が約10%減少している。この10%の減少分が「参加したくない」「わからない」に移行している。前項の満足度の数値は、昨年とほぼ同値であり、参加意図が減少した要因は定かではないが、ボランティア参加者をどのようにして参加したいという意図をもたせるかが今後の課題であり、活動を通じて継続意欲がわくようなボランティア活動となるよう内容を充実させていくことが重要である。



2) 神戸マラソンボランティア活動の経験

神戸マラソンボランティア活動回数を「1. 今回が初めて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目 5. 5回目 6. 6回目」で回答してもらった。今回が初めての参加であった人が 51.5%、2 回目が 18.8%、3 回目が 12.3%、4 回目が 6.3%、5 回目が 4.6%、6 回目が 6.3%であった（図 13）。

ほぼ半数が初めての参加者であり、ほぼ半数が複数回の参加者であった。この複数回の参加者の割合は年々増加しており、この割合を増やしていくことが重要である。前項の再参加意図と同様に、一度経験した活動を通じてさらに継続意欲がわくようなボランティア活動となるよう内容を充実させていくことが重要である。リピーターが増加することは、その経験などからボランティア活動の質を高めることにも繋がりやすく、好循環が期待される。

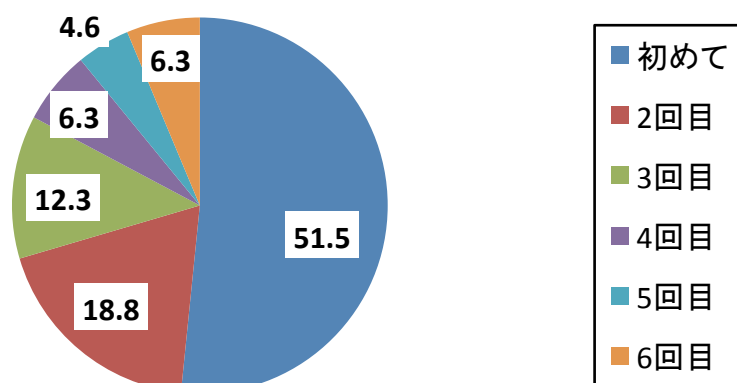
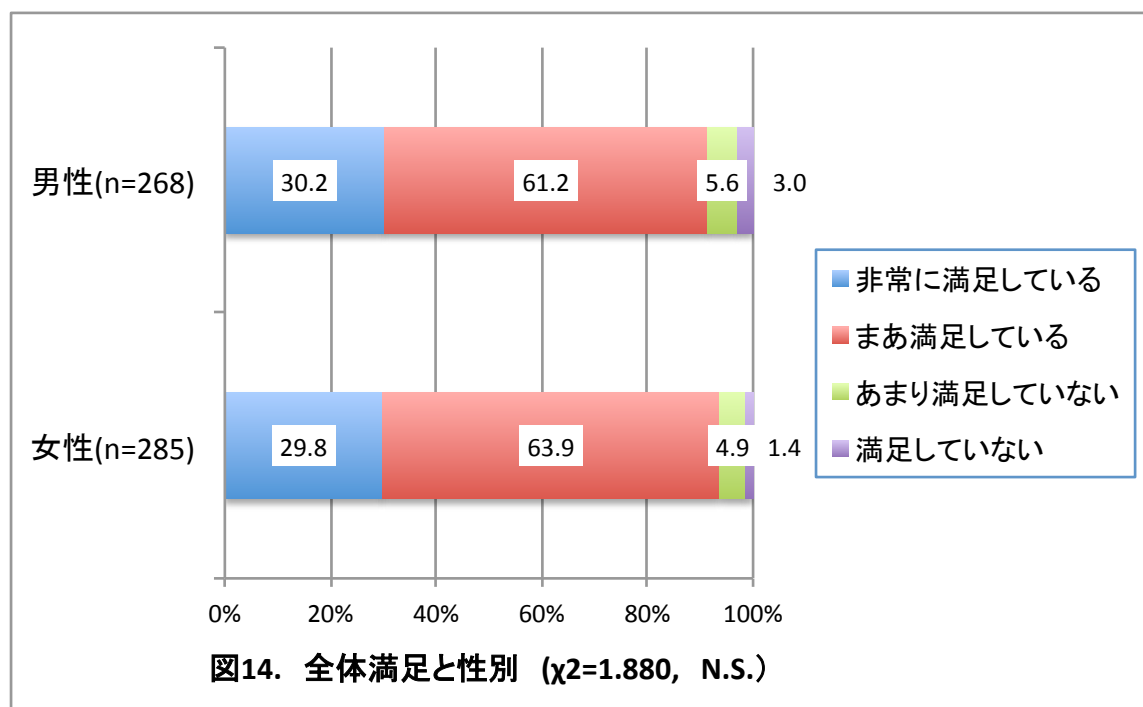


図13. 神戸マラソンボランティア活動の経験 (n=584)

4. 全体的な満足度のクロス集計結果

1) 満足と性別

図 14 には、全体的な満足度を性別でクロス集計した結果を示した。その結果、「非常に満足している」は男性が 30.2%であり、女性は 29.8%であった。「まあ満足している」は男性が 61.2%であり、女性は 63.9%であった。また、「非常に満足している」と「まあ満足している」を足した値は男性が 91.4%であり、女性が 93.7%と性別で大きな差はみられず、統計的にも有意な差はみられなかった。したがって、満足度においては性別で大きな違いはみられないことが明らかになった。

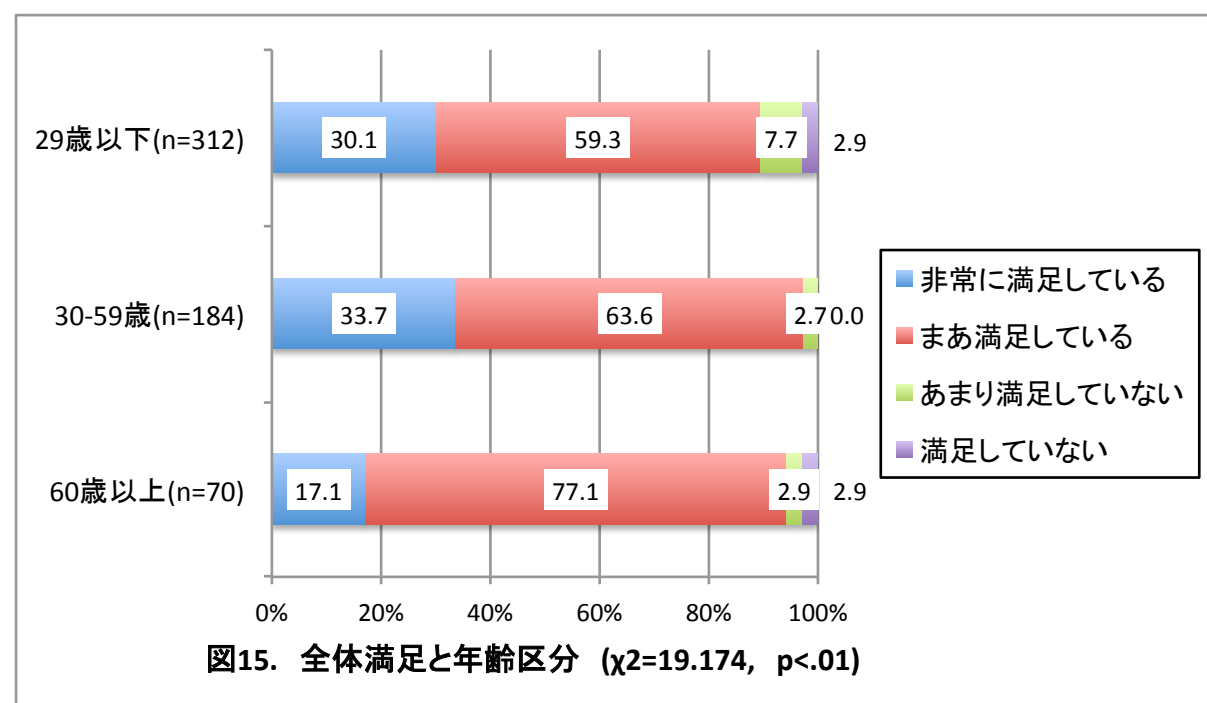


2) 満足と年齢区分

図 15 には、全体的な満足度を年齢区分でクロス集計した結果を示した。年齢区分は「20 歳未満」「20-29 歳」を「29 歳以下」とし、「30-39 歳」「40-49 歳」「50-59 歳」を「30-59 歳」に、「60 歳-69 歳」「70 歳以上」を「60 歳以上」に区分した。「29 歳以下」は 312 名、「30-59 歳」は 184 名、「60 歳以上」は 70 名であった。

その結果、「非常に満足している」は、29 歳以下が 30.1%、30-59 歳は 33.7%、60 歳以上は 17.1% で、60 歳以上が最も低い値を示した。「まあ満足している」は、29 歳以下が 59.3%、30-59 歳は 63.6%、60 歳以上は 77.1%と年齢が高くなるほど増加していた。年齢区分においては、1%水準で有意差がみられた。

このことから、29 歳以下の若年層は「非常に満足している」と「まあ満足している」を足した値が最も低く、満足している割合は少なかった。60 歳以上の参加者は満足している人は多いが、非常に満足している人は少ないことが明らかになった。

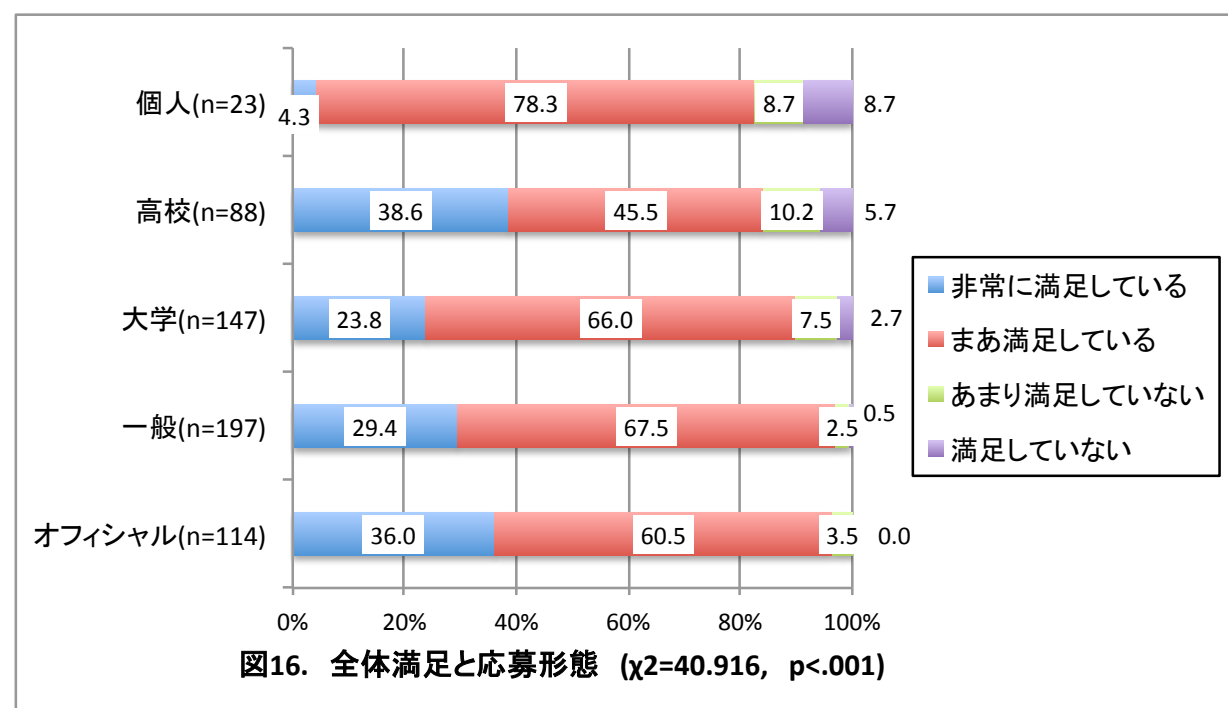


3) 満足と応募形態

図 16 には、全体的な満足度を応募形態でクロス集計した結果を示した。応募形態は、個人または 4 名以下のグループである「個人ボランティア」が 23 名、「団体ボランティア（高校）」が 88 名、「団体ボランティア（大学）」が 147 名、5 名以上の団体である「団体ボランティア（一般）」が 197 名、オフィシャルスポンサーからのボランティアである「オフィシャルスポンサー」が 114 名であった。

その結果、各応募形態の「非常に満足している」は、「個人ボランティア」が 4.3%、「団体ボランティア（高校）」が 38.6%、「団体ボランティア（大学）」が 23.8%、「団体ボランティア（一般）」が 29.4%、「オフィシャルスポンサー」が 36.0%であった。「まあ満足している」は、「個人ボランティア」が 78.3%、「団体ボランティア（高校）」が 45.5%、「団体ボランティア（大学）」が 66.0%、「団体ボランティア（一般）」が 67.5%、「オフィシャルスポンサー」が 60.5%であった。応募形態においては、0.1%水準で有意差がみられた。

このことから、「団体ボランティア（高校）」「オフィシャルスポンサー」では非常に満足している者の割合が多く、一方、「個人ボランティア」は満足している者の割合は多いが、非常に満足している者の割合が少ないことが明らかになった。

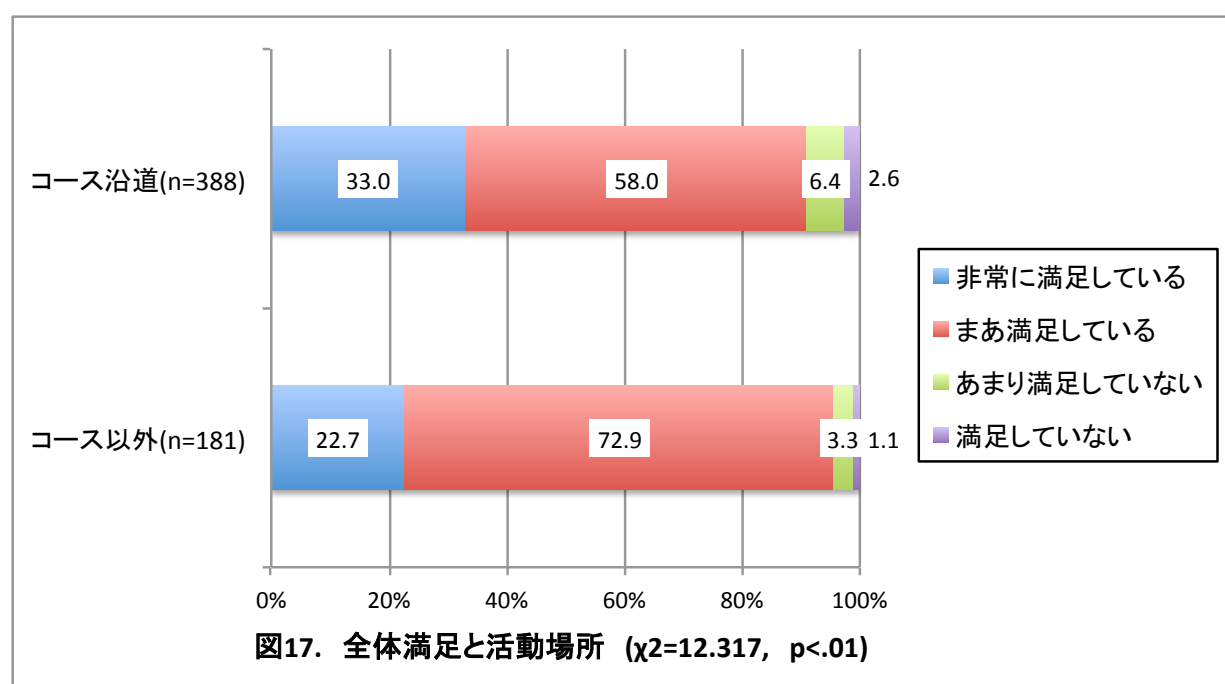


4) 満足と活動場所

図 17 には、全体的な満足度を活動場所でクロス集計した結果を示した。活動場所は、担当業務(P.8)の「コース沿道整理」と「給水・給食」のマラソンコース上の担当業務を「コース沿道」とし、残りの担当業務を「コース以外」とした。「コース沿道」は 388 名、「コース以外」は 181 名であった。

その結果、「コース沿道」の「非常に満足している」は 33.0%、「コース以外」は 22.7%であった。「コース沿道」の「まあ満足している」は 58.0%、「コース以外」は 72.9%であった。活動場所においては、1%水準で有意差がみられた。

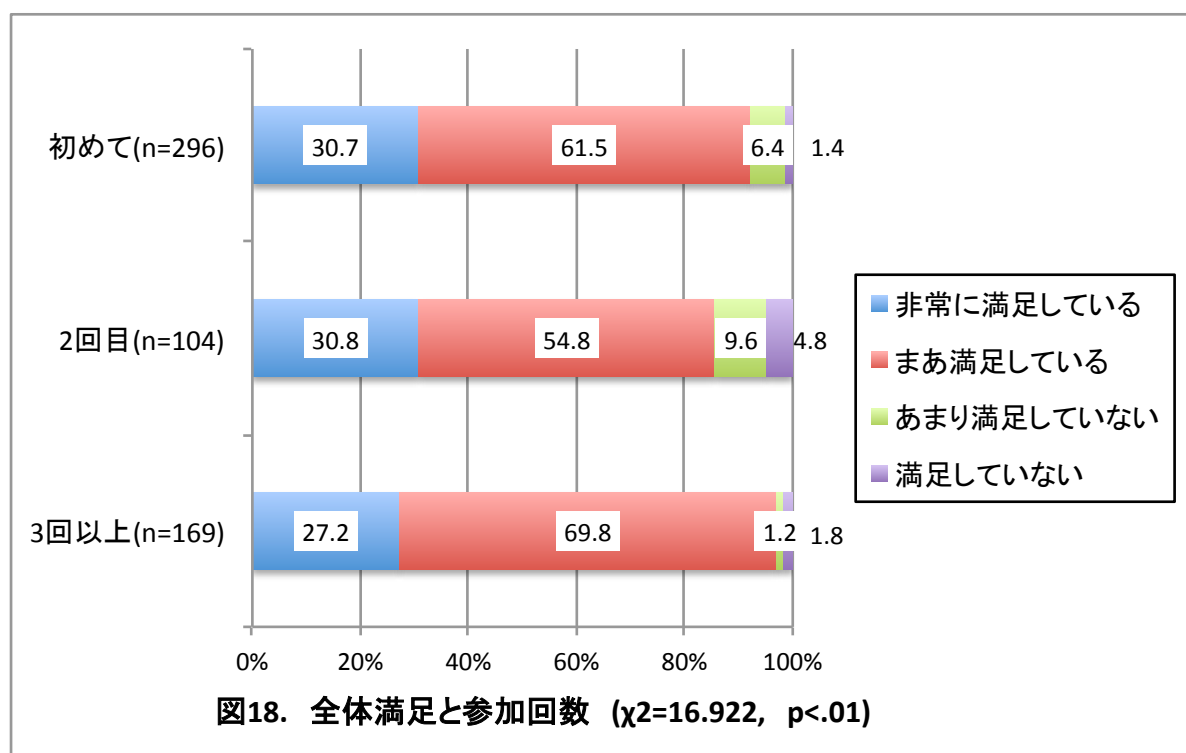
このことから、活動場所をコース沿道とコース以外に分けた場合、「コース沿道」の方が非常に満足している者の割合が多いことが明らかになった。



5) 満足と参加回数

図 18 には、全体的な満足度を参加回数でクロス集計した結果を示した。参加回数は、ボランティア活動回数(P. 14)の「初めて」「2 回目」「3 回以上」の 3 つに分類を行った。参加回数は、「初めて」の参加者が 296 名、「2 回目」が 104 名、「3 回以上」が 169 名であった。その結果、「初めて」の「非常に満足している」は 30.7%、「2 回目」は 30.8%、「3 回以上」は 27.2%であった。「初めて」の「まあ満足している」は 61.5%で、「2 回目」は 54.8%、「3 回以上」は 69.8%であった。参加回数においては、1%水準で有意差がみられた。

3 回以上参加している者は、非常に満足している割合は低いが、まあ満足している割合は高いことが明らかになった。

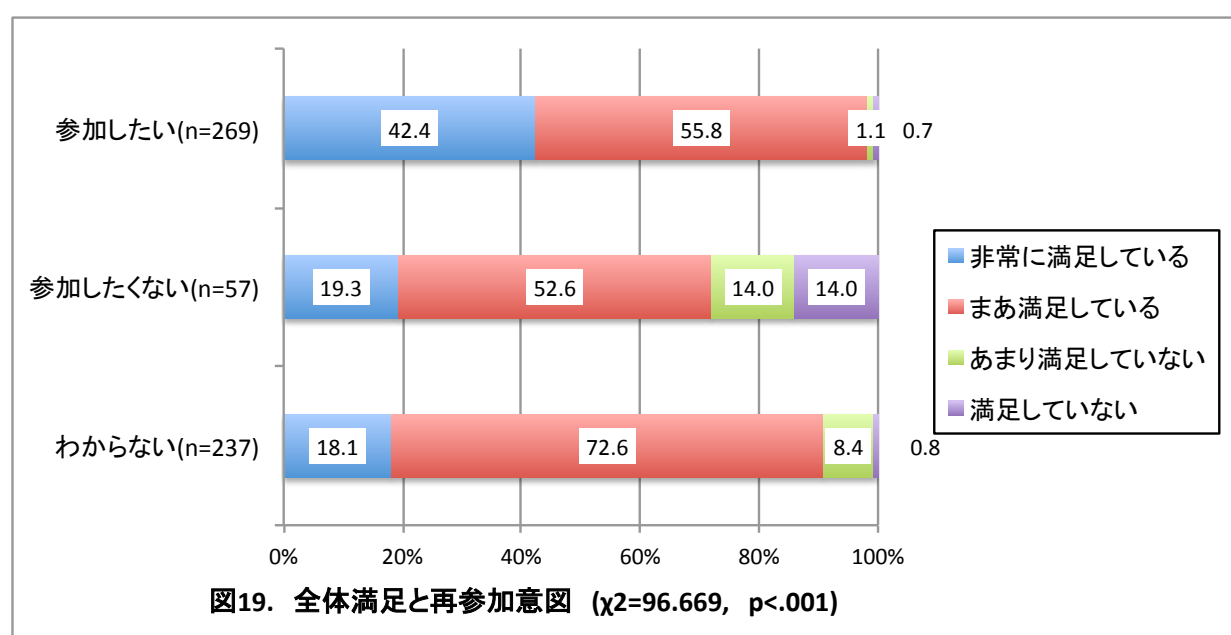


6) 満足と再参加意図

図 19 には、全体的な満足度を来年の再参加意図でクロス集計した結果を示した。再参加意図は、「参加したい」と回答した参加者が 269 名、「参加したくない」が 57 名、「わからない」が 237 名であった。

その結果、「参加したい」と回答した参加者の「非常に満足している」は 42.4%、「参加したくない」と回答した参加者は 19.3%、「わからない」と回答した参加者は 18.1%であった。「参加したい」と回答した参加者の「まあ満足している」は 55.8%、「参加したくない」は 52.6%、「わからない」は 72.6%であった。再参加意図においては、0.1%水準で有意差がみられた。

「非常に満足している」の回答者の割合は、「参加したい」と回答した参加者が最も多く、「参加したくない」「わからない」と回答した参加者は少なかった。次も参加したいと考えている参加者は満足度も高く、もう参加したくないと考えている参加者は満足度も低いことが明らかになった。

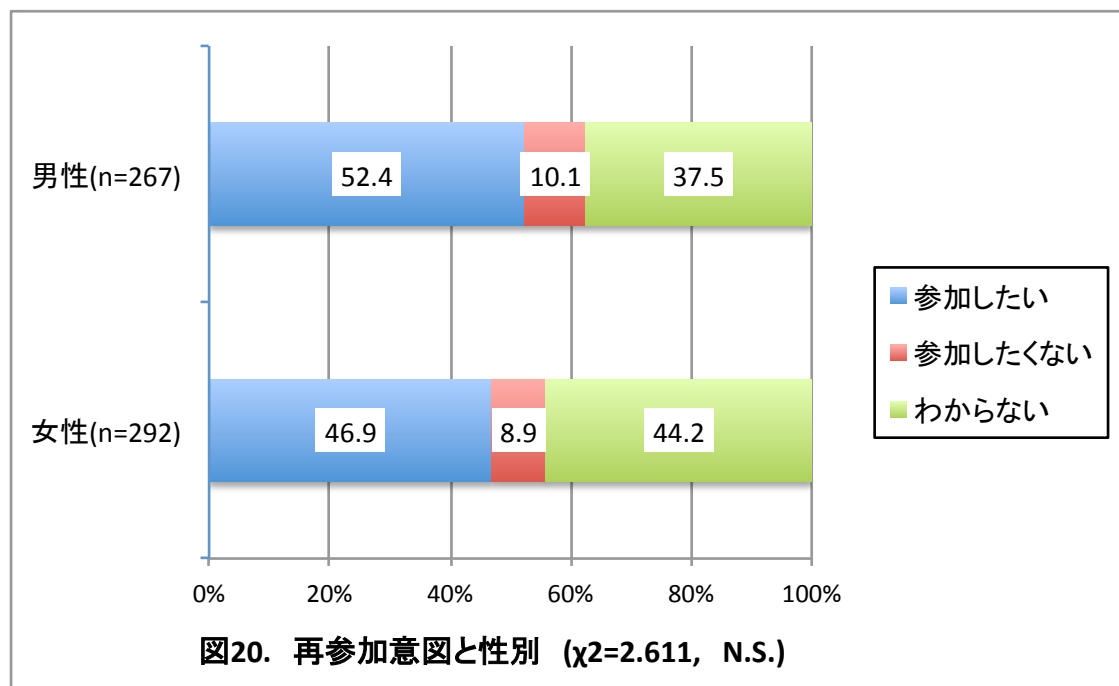


5. 来年の再参加意図のクロス集計結果

1) 再参加意図と性別

図 20 には、再参加意図を性別でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年の再参加意図のある人は、「男性」が 52.4%、「女性」が 46.9%であり、男性の方がやや多い傾向がみられた。また、「参加したくない」と回答した来年の再参加意図がない人は、「男性」が 10.1%、「女性」が 8.9%であり、ほぼ同じような値であった。性別においては、統計的に有意な差はみられなかった。

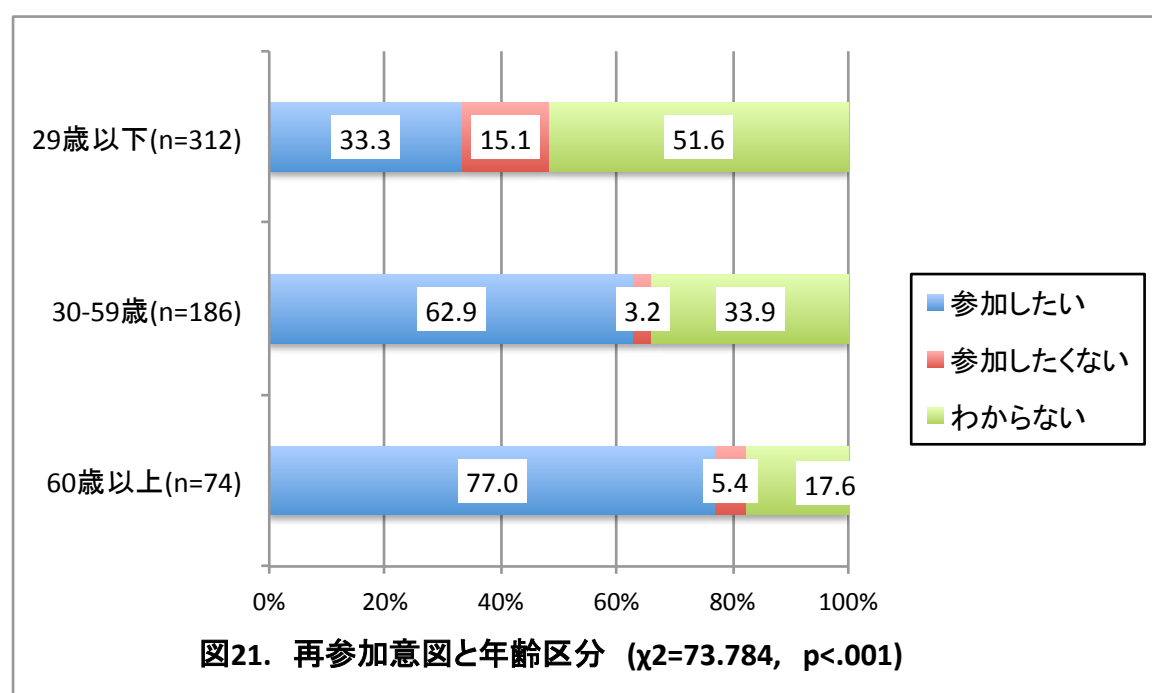
したがって、再参加意図においては性別において大きな違いはみられなかった。



2) 再参加意図と年齢区分

図 21 には、再参加意図を年齢区分でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年の再参加意図のある人は、「60 歳以上」が 77.0%、「30-59 歳」が 62.9%、「29 歳以下」が 33.3% であり、年齢の高い層の方が再参加意図が高かった。また、「参加したくない」と回答した来年の再参加意図のない人は、「29 歳以下」が 15.1%、「30-59 歳」が 3.2%、「60 歳以上」が 5.4% で、年齢が低い層が最も高い値を示した。年齢区分での集計では、0.1% 水準で有意差がみられ、年齢の高い層が年齢の低い層よりまた参加したいと思っている人が多いことが明らかになった。

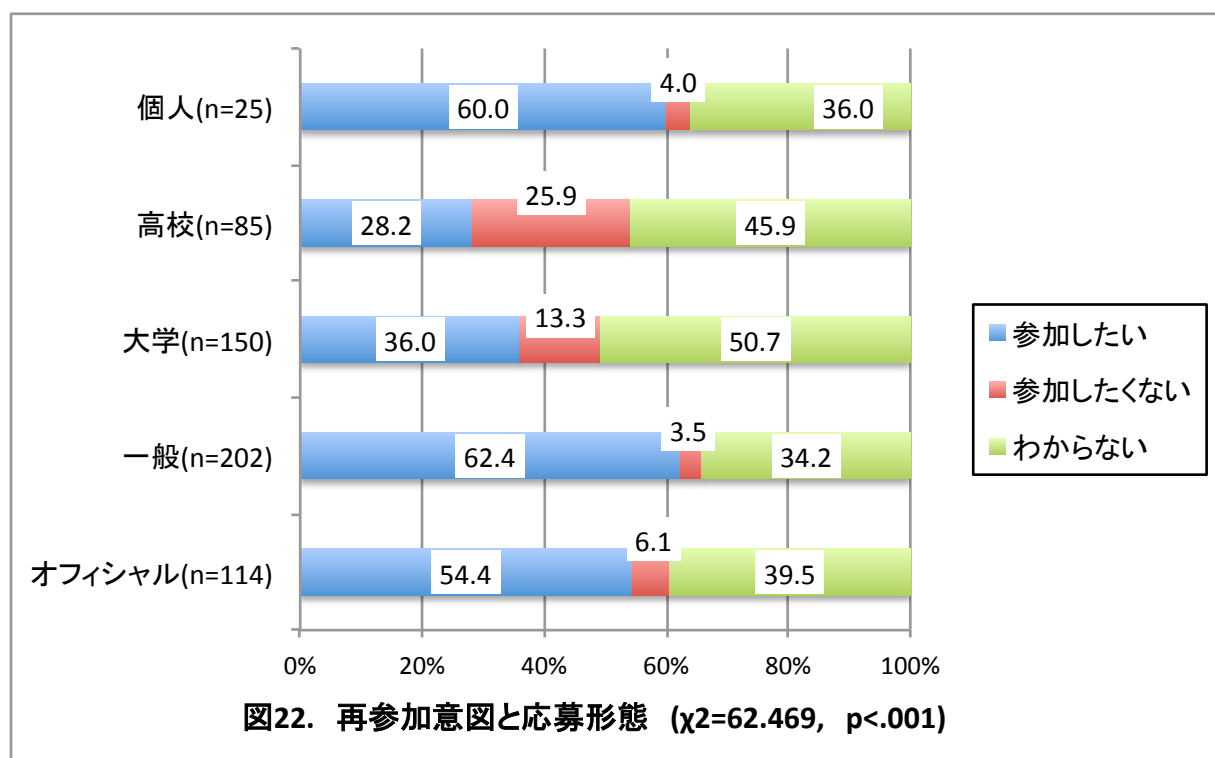
この傾向は、例年同じようにみられる。高い年齢層の方が参加に積極的である傾向は、ボランティア（マラソンボランティア）の特徴である可能性が考えられる。



3) 再参加意図と応募形態

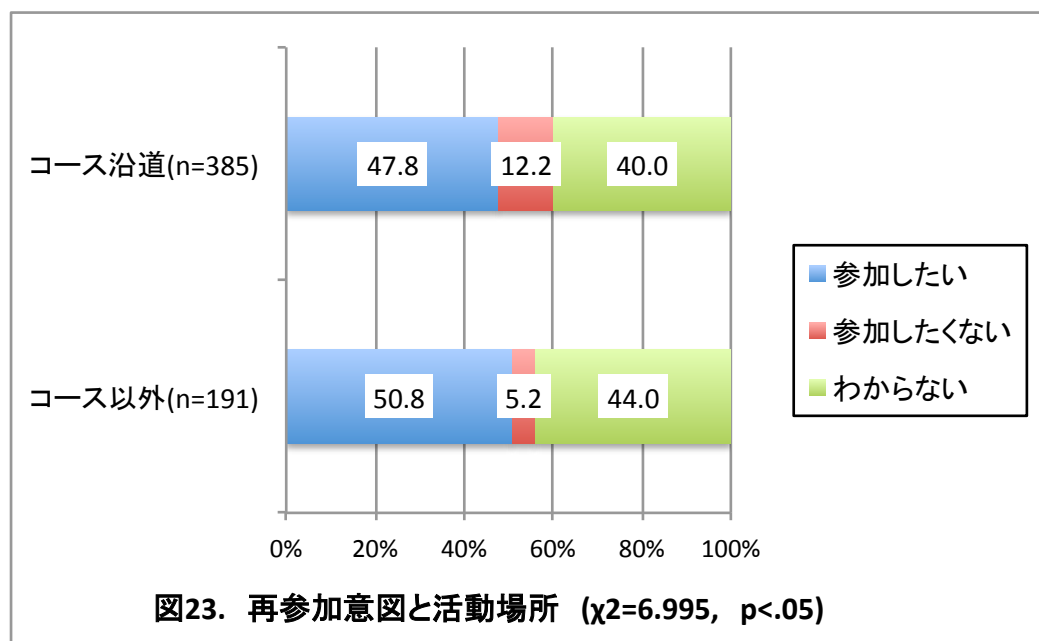
図 22 には、再参加意図を応募形態でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年度の再参加意図のある人は、「個人ボランティア」が 60.0%であり、再参加意図をもつ割合が最も高い値を示した。また、「いいえ」と回答した再参加意図のない人は、「団体ボランティア（高校）」が 25.9%と高い値を示し、次いで「団体ボランティア（大学）」が 13.3%であった。応募形態での集計においては、0.1%水準で有意差がみられ、「団体ボランティア（一般）」「個人ボランティア」「オフィシャルスポンサー」で再参加意図をもった人が多く、一方、「団体ボランティア（高校）」「団体ボランティア（大学）」は再参加意図をもった人が少ないことが明らかになった。

前項の年齢区分では、年齢層の低い方が再参加意図が少なかったことから、高校生、大学生の再参加への意志が積極的でないものと推察され、年齢区分の特徴と関連しているものと考えられる。



4) 再参加意図と活動場所

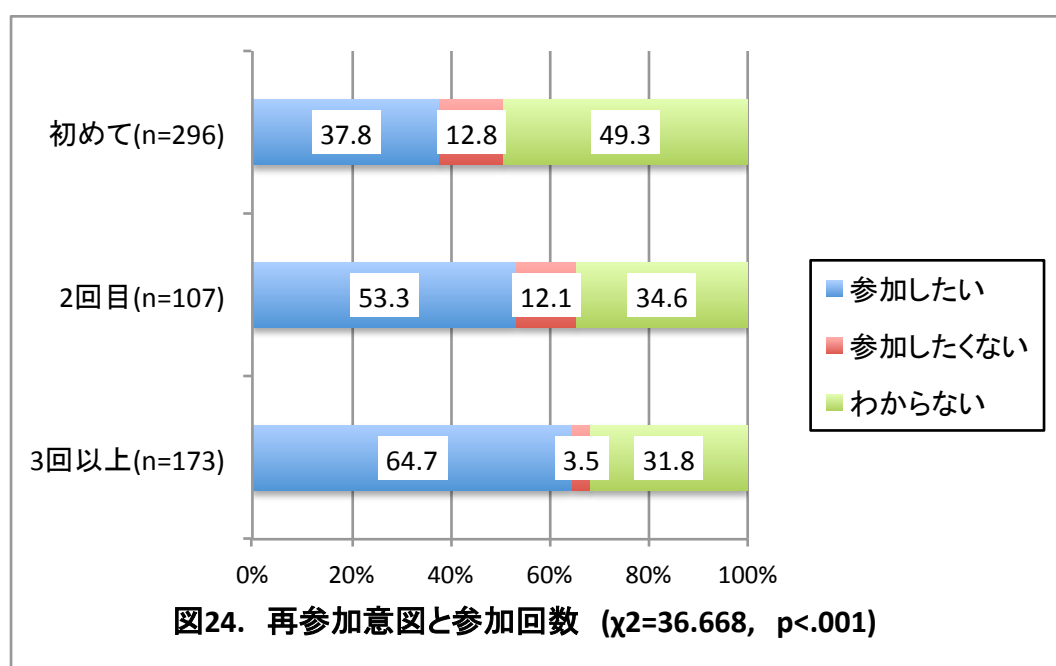
図 23 には、再参加意図を活動場所でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年の再参加意図のある人は、「コース沿道」が 47.8%、「コース以外」が 50.8%であった。「参加したくない」と回答した来年の再参加意図のない人は、「コース沿道」が 12.2%、「コース以外」が 5.2%であった。「わからない」と回答した参加意図を保留している人は「コース沿道」が 40.0%、「コース以外」が 44.0%であった。活動場所においては、5%水準で有意差がみられ、「コース以外」の方が、参加意図が高いことが明らかになった。



5) 再参加意図と参加回数

図 24 には、再参加意図を参加回数でクロス集計した結果を示した。「参加したい」と回答した来年も再参加意図のある人は、「初めて」の参加者が 37.8%、「2 回目」の参加者が 53.3%、「3 回以上」の参加者が 64.7%となっており、回数が多くなるほど再参加意図をもつ割合が高い値を示した。また、「いいえ」と回答した再参加意図のない人は、「初めて」の参加者が 12.8%、「2 回目」の参加者が 12.1%、「3 回以上」の参加者が 3.5%となっており、「3 回以上」の参加者が最も低い値を示した。

これらの結果より、参加回数が多くなるにしたがい、再参加意図も大きくなることが示され、参加回数の多い参加者は次回も参加する意志が強いことが明らかになった。参加回数においては、0.1%水準で有意差がみられた。



6. 参加動機と再参加意図

次回も参加したいと思っている参加者は、どのような動機をもって参加しているのかを調べるために、動機と再参加意図で分散分析を行った（表1）。その結果、20項目中17項目において有意差がみられ、ほとんどの項目で「参加したい」が最も高い値を示し、「参加したくない」が最も低い値を示した。有意差がみられた項目の中でも、F値の大きさから顕著な差がみられた項目を赤字で示した。赤字で示した項目をF値の大きかった順に列挙すると、「他人と協力して目的を達成したい」「神戸マラソンの成功に役立ちたい」「地域に貢献したい」「社会的視野が広がる」「社会に貢献したい」「ボランティアに興味がある」「人のために役立ちたい」「人との出会い・交流がある」であった。このように、再びボランティアに参加したいと思っている人の動機の特徴は、「神戸マラソン」「ボランティアへの興味」「貢献」「協力」「交流」がキーワードとして挙げられる。

表1. 動機と再参加意図

	参加したい	参加したくない	わからない	F-value	
人との出会い・交流	3.12	2.58	2.78	18.38	***
新しい知識を得る	2.86	2.44	2.66	8.39	***
大きなイベントに興味	3.07	2.47	2.77	17.79	***
仕事に役立つ	2.66	2.26	2.52	5.07	**
自分が成長・向上	3.02	2.60	2.81	9.12	***
知人からの勧誘・紹介	2.58	2.72	2.72	1.47	
人のために役立つ	3.32	2.75	3.04	18.50	***
スポーツが好き	3.12	2.93	2.96	2.70	
神戸マラソンの成功に役立つ	3.26	2.63	2.92	23.25	***
他人と協力して目的を達成	3.21	2.56	2.85	24.68	***
日常では得られない経験	3.41	2.96	3.17	11.33	***
ボランティアに興味	3.15	2.53	2.86	19.16	***
人的ネットワーク	2.85	2.28	2.64	12.52	***
自己の再発見	2.82	2.35	2.57	10.16	***
職場・学校の活動の一環	3.04	3.19	3.09	0.79	
社会に貢献	3.22	2.60	2.92	19.55	***
スポーツに関係ある活動	2.89	2.51	2.72	5.31	**
神戸マラソンに魅力	3.09	2.49	2.82	17.96	***
社会的視野が広がる	3.13	2.47	2.83	20.67	***
地域に貢献	3.26	2.63	2.93	22.14	***

*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001

7. 参加の阻害要因と再参加意図

次回も参加したいと思っている人と参加したくないと思っている人が、ボランティア参加の阻害要因にどのような違いがあるのかを調べるために分散分析を行った（表2）。

ほとんどの項目で「参加したくない」が「参加したい」よりも高い値を示し、23項目中21項目で有意差がみられた。

有意差がみられた項目の中でも、F値の大きさから顕著な差がみられた項目を赤字で示した。赤字で示した項目をF値の大きかった順に列挙すると、「休憩が少ない」「神戸マラソンボランティアに興味がない」「お金を費やす価値が考えられない」「活動時間が長い」「やりたい活動ができない」「ボランティアにストレスを感じる」であった。参加したくない人は、活動時間が長く、休憩も少ない、ボランティア活動に意義を見出すことができない等の要因が、参加の妨げになっていることが明らかになった。

表2. ボランティア参加の阻害要因と再参加意図

	参加したい	参加したくない	わからない	F-value	
ボランティア以外の用事がある	3.23	3.05	3.25	1.08	
休憩が少ない	1.66	2.56	2.13	36.79	***
活動時間が長い	1.78	2.63	2.21	28.06	***
活動場所が清潔でない	1.54	1.89	1.77	9.68	**
活動場所にトイレが少ない	1.67	1.95	1.96	8.94	***
活動場所が寒い	1.63	1.90	1.93	10.15	***
活動場所まで時間がかかる	1.78	2.30	2.07	11.57	***
ランナーとのトラブル	1.38	1.55	1.54	4.40	*
スタッフとのトラブル	1.40	1.58	1.53	2.95	
ボランティア同士とのトラブル	1.37	1.58	1.51	4.34	*
地域住民とのトラブル	1.39	1.66	1.57	5.34	**
ボランティア活動費が負担	1.64	2.04	1.89	8.05	***
お金を費やす価値が感じられない	1.40	2.05	1.78	28.97	***
やりたい活動ができない	1.53	2.32	1.87	27.39	***
神戸マラソンボランティアに興味なし	1.42	2.14	1.78	30.23	***
友人・家族が神戸マラソンボランティアに興味なし	1.41	1.95	1.72	18.67	***
ボランティアにストレスを感じる	1.36	2.07	1.65	26.76	***
ボランティアに必要な能力がない	1.40	1.89	1.69	18.00	***
ボランティアに必要な体力がない	1.47	1.89	1.74	11.27	***
安全面での不安	1.43	1.77	1.60	7.59	**
仕事・家事・勉強が忙しい	2.09	2.33	2.42	6.46	**
家族・友人と過ごす時間が忙しい	1.87	2.16	2.17	6.80	**
家族・友人からの反対がある	1.34	1.58	1.55	7.68	**

*:p<.05, **:p<.01, ***:p<.001

8. 「ボランティア活動を終えての感想、意見、要望」(自由記述)

個人ボランティア

○ 満足群

楽しかった

- ・ 楽しかった。(30 歳代、女性)。
- ・ 3 日間参加し、メンバーに恵まれて楽しく活動できた。(50 歳代、女性)

充実感

- ・ 選手の方々とゴールでの対話も楽しく、答えてくださるランナーの姿を見るのが嬉しかった。
(70 歳代、女性)

貴重な体験

- ・ 時間が長く大変疲れたが、いい経験になった。(20 歳代 女性)

次回も参加

- ・ 来年はもっとランナーに声掛けをしたい。(50 歳代、女性)

●不満足群

運営

- ・ 手荷物返却の準備（並び替えなど）をやったが、マニュアルがなく、スタッフの指示も少ないため、動きづらかった。(20 歳代、女性) ほか 1 名
- ・ ごみ持ち帰りが原則だと思うが、それを徹底する案内がないため、一時ごみの山ができていた。
(50 歳代、女性)
- ・ ランナー受付確認で、身分証の提示があってもなしでもいいと中途半端でいいのか。どちらでもいいのなら、なしでいいのではないか。(60 歳代、女性)

スタッフ・リーダー

- ・ エリアリーダーが要領をわかっていないので、判断できないし指示できていない。リーダーは自分の仕事をしっかり把握して欲しい。(70 歳以上、男性) ほか 3 名

他のボランティア

- ・ 高校生ボランティア(特に女子)のだらだらした態度が目について、少し残念だった。(30 歳代、女性)

その他

- ・ フィニッシュ誘導を希望していたが、手荷物誘導に当たり、マラソンボランティアに参加した感じがなかった。(60 歳代、男性)

○ 意見・要望群

集合時間

- ・ 家から始発で間に合うボランティア場所にしてほしい。(40 歳代、女性)

運営

- ・ 手荷物の担当ボランティアの集合時間を早めて欲しい。誘導の看板の下に矢印をつけたほうがよい。(60 歳代、男性)
- ・ クッキーを渡す場所が移動するため、選手が混乱している。(60 歳代、女性)

スタッフ・リーダー

- ・ 事前の研修は念入りにしてほしい。スタッフの臨機応変な対応を切に願う。(50 歳代、女性)

トイレ・ごみ箱等

- ・ 完走者にバナナ・水を渡すのであれば、ごみを捨てる場所・人も設置すべきである。(60 歳代、男性)

事前情報

- ・ 完走証についての事前説明を徹底してほしい。(60 歳代、女性)

団体ボランティア（高校）

○ 満足群

楽しかった

- ・ 大変だったけど楽しかった。（10 歳代、女性） ほか 9 名
- ・ ずっとやりたかった活動だったので楽しかった。（10 歳代、女性）
- ・ 今年もランナーのみなさんのありがとうと笑顔が見られて楽しかった。（10 歳代、女性）

充実感

- ・ すごく大変でしたが応援は楽しく、ありがたい言葉がうれしかった。（10 歳代、女性） ほか 3 名
- ・ 責任感をもって取り組むことができ、自己の成長にもつながった。（10 歳代 女性）
- ・ いろいろな人の役に立ててとてもうれしかった。（10 歳代、女性）
- ・ 参加できてよかった。（10 歳代 女性）
- ・ キノコの山を見つけた人がとてもうれしそうな表情をしていたのが印象的。（10 歳代、女性）

貴重な経験

- ・ 普段体験できないことができて、とてもいい経験になった。（10 歳代、女性） ほか 5 名
- ・ 今回のボランティアでは、非常にいい体験ができた。声を出すことに誇りを感じ、水を入れることには正義を感じた。（10 歳代、男性）
- ・ 今回のボランティア活動を通していろいろなことを知ることができてよかった。（10 歳代、男性）
- ・ ボランティアの活動ができてよかった。（10 歳代、男性）

協力・交流

- ・ ランナーの方と直接触れ合えることができよかった。（10 歳代 女性）
- ・ たくさんの人とコミュニケーションをとることができ、勉強になった。（10 歳代、女性）

感動・感謝

- ・ 素晴らしいです！（10 歳代、男性）
- ・ 1 位の人が走っているところが感動した。一生懸命やっている人が良かった。（10 歳代、男性）

その他

- ・ 自分もぜひマラソンを走って完走したいと思った。（10 歳代、女性）
- ・ 1 位の人がとても速くて、自分も速く走れるようになりたいと思った。（10 歳代、男性）
- ・ 最高！！（10 歳代、男性）

○ 意見・要望群

運営

- ・ 団体での休憩場所がほしい。（10 歳代、女性） ほか 2 名

団体ボランティア（大学）

○ 満足群

楽しかった

- ・ 楽しかった。（20 歳代、女性） ほか 4 名
- ・ 初めての大きなボランティア活動でしたが、充実していて楽しかった。（20 歳代、女性）

充実感

- ・ 多くの人が協力することで神戸マラソンができるということを実感できた。（10 歳代、女性）
- ・ ランナーの方とハイタッチして会場が一つになっていると感じた。（10 歳代、女性）
- ・ 逆に元気をもらった。（20 歳代、女性）
- ・ 応援する側だがランナーの人たちにたくさん元気をもらえ、とても充実した 1 日になった。（20 歳代、女性）
- ・ ただ沿道に立っているだけだと思っていたが、いろんなランナーを見ているうちにこちらも楽しめた。（20 歳代、女性）

感動・感謝

- ・ ランナーに「ありがとう」と言われて嬉しかった。（10 歳代、女性） ほか 2 名
- ・ 一人で走るのではなく、みんなが助け合っている姿を見て感動した。（10 歳代、女性） ほか 2 名
- ・ 一生懸命走る姿を見て胸が熱くなった。（20 歳代、男性） ほか 1 名
- ・ ランナーの方たちのあきらめない姿勢に元気をもらった。（10 歳代、女性） ほか 1 名
- ・ 応援の力はすごいなと思った。（10 歳代、女性）
- ・ みんなが一生懸命で、応援にも力が入った。（20 歳代、女性）

貴重な経験

- ・ 応援する立場を経験でき、とても良い経験になった。（20 歳代、女性） ほか 5 名
- ・ 仲間と協力ができて盛り上げることもできたし、良い経験になった。（20 歳代、男性）
- ・ 頑張っているランナーの人たちに対して、どのような声掛けをすればいいか、言葉選びをすごく考えることができた。（10 歳代、女性）

交流

- ・ ランナーとたくさん交流を持つことができ、今度はランナーとして参加したいと思った。（10 歳代、女性）
- ・ ランナーとのふれあいは楽しかった。（20 歳代、女性）

次回も参加

- ・ 初めて大学の授業の一貫で参加したが、本当に充実したボランティア活動を行うことができた。また機会があれば参加したい。（20 歳代、女性）

- ・ マラソンを通じて人とのつながりを感じた。また参加したいと思った。(10 歳代、男性)

その他

- ・ 長時間での活動だったため疲れたが、やりがいを感じられた。(10 歳代、女性) ほか 1 名
- ・ ランナーを実際に見て、次回は走りたいと思った。(20 歳代、男性) ほか 1 名
- ・ ランナーを近くで応援できてよかった。(20 歳代、女性)
- ・ ランナーのいろいろな表情を見ることができよかった。(10 歳代、女性)
- ・ トラブルのない神戸マラソンでよかった。(10 歳代、男性)

●不満足群

運営

- ・ 仕事が少なかった。(20 歳代、男性)
- ・ 立ち時間が長かった。(20 歳代、男性)

スタッフ・リーダー

- ・ 黒ジャンパーのスタッフの指示があいまい。(40 歳代、男性)

ボランティア

- ・ 7 区 5～8 の誘導担当のボランティアは、人通りが少なくいる意味がないと感じた。(20 歳代、女性)

集合時間

- ・ 集合時間が早く、30 分間何もしていなかった。(20 歳代、男性)

その他

- ・ 時間と労働を提供する価値を感じず、学べることがない。(20 歳代、男性)

○意見・要望群

運営

- ・ トイレの休憩の時間が多少ほしかった。(10 歳代、男性)

その他

- ・ 飲食物を配布してほしかった。(10 歳代、男性)
- ・ 自分が立っている位置が、コースのどの位置なのか把握したい。(10 歳代、女性)

団体ボランティア（一般）

○ 満足群

楽しかった

- ・ とても楽しかった。 ほか1名

充実感

- ・ 今年も参加できよかった。（20 歳代 女性）
- ・ 初めて神戸マラソンのボランティアができてよかった。（10 歳代、男性）
- ・ 健康促進への支援ができて喜びを感じている。（60 歳代、男性）

感動・感謝

- ・ ランナーの皆さんの頑張る姿に感動した。（20 歳代、女性）
- ・ 初めての参加だったが、感動、活力をいただいた。（40 歳代、女性） ほか1名
- ・ 今までにしたことのないことを初めて経験させてもらい感謝。（50 歳代、女性）

貴重な体験

- ・ 知らない人との心の交流ができる貴重な体験だった。（50 歳代、女性）

次回も参加

- ・ これからも地域ボランティアに参加したい。（70 歳代、男性）

スタッフ・運営

- ・ 非常にスムーズにいった。（70 歳代、男性）
- ・ 参加ランナーは全般的にマナーがいいのでやりやすかった。（40 歳代、男性）

その他

- ・ フルマラソンは何度も走っているが、ボランティアに参加して裏方の大変さがよくわかった。（50 歳代、男性）
- ・ マラソンは楽しい。完走できなくてもいつか自分も走りたい。（60 歳代、男性）
- ・ 2 万人のマラソンランナーとはこれほど多いのかと実感した。またスタッフの多さにも感心した。（60 歳代、男性）
- ・ ボーイスカウトとして地域に貢献できることは、素晴らしく思う。（50 歳代、男性）
- ・ ご苦労様。（40 歳代 男性）

● 不満足群

運営

- ・ ガードマンと陸協の打ち合わせが必要。言われていることが違う。(50 歳代、男性)
- ・ きちんとしたリーダーがいるともっとスムーズになるはず。関係者はもっと細かな打ち合わせが必要。毎年やっているとは思えない。(30 歳代、女性)

スタッフ・リーダー

- ・ スタッフ間の連携があまり取れていないように感じる。(50 歳代、男性)
- ・ 青ジャンパーを着ている人がまともに働かない。スタッフと赤字で書かれている人も使えない。(20 歳代、男性)

トイレ・ごみ箱等

- ・ ペットボトルや雨かっぱのごみが多すぎて、回収が大変だった。(60 歳代、男性)

その他

- ・ 参加者がユニホームに着替える時に、他人の敷地内に入って着替えている。(60 歳代、男性)

○ 意見・要望群

運営

- ・ 警察と部分規制を始める人との連携不足があったので権限者をはっきりとさせ安全な指導をお願いしたい。（40 歳代、男性）
- ・ 段ボール板が濡れてぐしゃぐしゃになるのでプラスチックトレイなどを利用できたら良いと思う。（40 歳代、男性）
- ・ もう少しまとまった休憩がほしかった。（10 歳代、女性）
- ・ ボランティア活動場所を大きく変更しないしてほしい。（60 歳代、男性）
- ・ 朝が早く電車がないため、ボランティア用の駐車場の確保をしてほしかった。（40 歳代、女性）

事前情報

- ・ 語学ボランティアについて、必要条件、具体的な活動内容が事前にわかればより応募しやすい。（20 歳代、女性）

トイレ・ごみ箱等

- ・ 仮設トイレがほしい。（50 歳代、男性）
- ・ トイレの列を作りやすいようにカラーコーンとバーがあればよかった。（60 歳代、男性）
- ・ 8 時 20 分ごろのトイレ行列の長さにびっくり。更衣テント付近にもごみ箱を設置してほしい。（60 歳代、女性）

更衣室

- ・ 更衣室のブルーシートの面積が少ない。ランナーの数が多いので、更衣室に対する呼びかけは、小型拡声器が必要。（70 歳代、男性）

給水・給食

- ・ 飲み物（水）、キノコの山、アメが少ない（70 歳代、女性）
- ・ 毎年水が不足しているため、ランナーの方に十分に用意してあげていただきたいと思う。（50 歳代、女性）
- ・ 5 k m 地点なのに飲み物が多い。後半のところに配置すべき。（60 歳代、女性）

オフィシャルスポンサー

○ 満足群

楽しかった

- ・ 昨年より大変だったが、ランナーを見る余裕があり楽しめた。（40 歳代、男性）
- ・ 先頭グループで忙しかったが、皆で協力しあって楽しく活動できた。（40 歳代、女性）

充実感

- ・ 充実した時間を過ごすことができた。（20 歳代、女性）
- ・ 初参加で何も分からない状態だったが、満足感と充実感があった。（40 歳代、女性） ほか3名
- ・ ランナーのポジティブな姿勢を改めて感じる事ができた。（50 歳代、男性）
- ・ 同僚の応援もでき、微力ながら貢献もできて満足。（40 歳代、男性）
- ・ 職場の身近な人達でチーム編成されており、安心感があり作業しやすかった。（50 歳代、男性）
- ・ 適切に人員配置されており、気持ち良く活動することができた。（40 歳代、男性）
- ・ 経験者が多いこともあり、円滑に活動できた。（50 歳代、男性）
- ・ リーダーとなり不安だったが、皆の協力もあり無事に終えることができた。改めてチームプレーの良さ、大事さを認識した。（30 歳代、男性）
- ・ 神戸マラソンは手作り感がある素晴らしい大会だ。（50 歳代、男性）
- ・ 神戸マラソンに関わりが持てて良かった。（40 歳代、女性）

感動・感謝

- ・ 今年も貴重な体験ができて感謝。（50 歳代、女性）
- ・ 段取りなどリーダーには感謝したい。（60 歳代、男性）
- ・ これまでランナーとして参加してきたが、今回ボランティアの方々の一生懸命さがよく分かった。（50 歳代、男性）

貴重な経験

- ・ いい経験ができた。（20 歳代、男性）

協力・交流

- ・ 知らないメンバーとの協力作業は有効である。（40 歳代、男性）
- ・ 他の部署のメンバーと混合チームで、お互い交流でき盛り上がった。（40 歳代、女性）

次回も参加

- ・ リーダーからいろいろノウハウを教えて頂いた。今後も充実したサポートができるよう参加したい。（50 歳代、男性）
- ・ 専業主婦になり社会での活躍の機会が少なくなった。今回の参加で久しぶりにやりがいを感じることができた。来年も張り切って参加したい。（20 歳代、女性）

その他

- ・ 忙しくなるにつれ、自分らで工夫して給水方法を考え、ランナーに対応できたのが良かった。(50 歳代、男性)
- ・ 「ファイト」「頑張って」だけでなく、「お水あります」「給水」などの言葉を言うことで、視覚障害者に気がついてもらった。(40 歳代、女性)
- ・ 次回は給水の準備をしながら、ランナーの応援も積極的にやりたい。(50 歳代、男性)

○ 意見・要望群

運営

- ・ 水・紙コップより先に、机などの備品が先に来た方がスムーズに設営できる。(40 歳代、男性) ほか 1 名
- ・ 備品・飲料水を乗せている台車が壊れていたため、運びにくかった。事前に確認すべき。(30 歳代、男性) ほか 1 名
- ・ ペットボトルのオープナー、クラッシャーなどの道具を採用してほしい。(50 歳代、男性)
- ・ 荷物が水に濡れないようにビニールシートが欲しい。(40 歳代、不明)
- ・ 給水の準備作業をする場所が狭く、作業しにくかった。(30 歳代、女性) ほか 1 名
- ・ 車道と歩道の間の雑草が活動の妨げになっている。事前に草刈りなどの配慮が必要。(40 歳代、男性)
- ・ 机 1 台に 3 人担当の体制が活動しやすかった。(50 歳代、男性)
- ・ 当日の詳細を把握しているのはリーダーだけなので、もう一人把握している人がいるとスムーズになると思う。(20 歳代、男性)
- ・ 初めての参加だったが、想像をはるかに超える忙しさで大変だった。(40 歳代、女性) ほか 1 名
- ・ 先頭の給水は非常に忙しいので、人数など来年は改善が必要と感じた。(40 歳代、男性)
- ・ テーブルによって、かなり忙しさが違うので、年齢や体力的な考慮は必要と感じる。(40 歳代、女性)

その他

- ・ ランナーに、次の給食ブースまで何キロかと質問されたが、答えられず申し訳なかった。(40 歳代、女性)

【参考資料】

『神戸マラソン 2016』語学対応ボランティアに関する調査結果

概要

1. 目的

神戸マラソンに外国人参加者が年々増加しているため、語学対応ボランティアの充実が必要だと考えられる。本調査では、語学対応ボランティアの参加者に対し、参加動機、活動状況、満足度などを中心に分析し、今後の語学対応ボランティアに役立つ基礎資料としたい。

2. 内容

1) 属性：性別、国籍、年齢、職業、居住地

2) 本大会におけるボランティア活動について：

応募形態、情報源、担当業務、担当言語、対応機会、参加動機、ボランティア参加後の全体的な満足度、

3) 次回大会への参加意図とこれまでの活動状況：

来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図、他の大会へのボランティア参加意図、これまでの神戸マラソンボランティア活動の経験

4) 満足度の理由：自由記述

5) 参加後の感想、意見、要望：自由記述

調 査 項 目

要因群	項 目	カテゴリー
属 性	回答者の属性	1.性別 2.国籍 3.年齢 4.職業 5.居住地
参加の情報	情報源	1.友人 2.職場 3.学校 4.職場・学校以外の団体 5.新聞・雑誌 6.テレビ・ラジオ 7.地域の広報誌 8.ポスター・ちらし 9.インターネット 10.その他
応募形態と 担当業務	応募形態	1.個人ボランティア 2.団体ボランティア(一般)
	担当業務	1.コース沿道整理 2.手荷物預かり・返却 3.インフォメーション
	担当言語	1.英語 2.中国語 3.韓国語 4.その他
	対応機会	1. 0回 2. 1-5回 3. 6-10回 4. 11回以上
動 機	参加動機 (6項目)	1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる
満 足	全体的な満足	1.満足していない 2.あまり満足していない 3.まあ満足している 4.非常に満足している
参加意図	来年の神戸マラソン	1.はい 2.いいえ 3.わからない
	他の世界的大会	1.はい 2.いいえ 3.わからない
これまでの参加状況	ボランティア参加	1.今回が初めて 2.2回目 3.3回目 4.4回目 5.5回目 6.6回目
活動後の感想	満足度の理由	自由記述
	ボランティア活動後の 感想、意見、要望	自由記述

3. 対象

- 1) 母集団：「神戸マラソン 2016」で活動した語学対応ボランティア
- 2) 登録ボランティア数：100 名（個人ボランティア 79 名、団体ボランティア 21 名）

4. 回収方法

調査票を受付時に渡し、活動後に記入した調査票を郵送してもらった。

5. 回収結果

有効回答数：32 票

個人ボランティア：18 票

団体ボランティア：14 票

6. 研究組織

4) 組織

兵庫体育・スポーツ科学学会 ひょうご地域スポーツ振興プロジェクト

5) 『神戸マラソンボランティア調査グループ』メンバー

松村浩貴、土肥隆、伊藤克広（以上：兵庫県立大学）、福田一儀（至誠館大学）、船越達也（大阪国際大学）、勝木洋子（神戸親和女子大学）、山口志郎（流通科学大学）

6) 連絡先

〒651-2197 神戸市西区学園西町 8-2-1

兵庫県立大学経営学部 松村浩貴研究室

Phone: 078-794-7095

Fax: 078-794-7129

E-mail: kouki@biz.u-hyogo.ac.jp

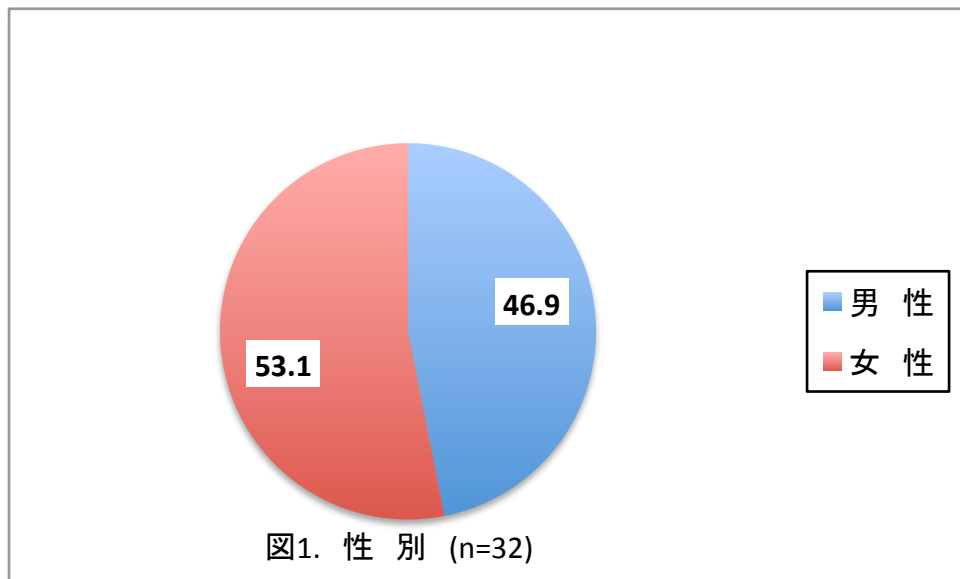
7. 調査協力

神戸マラソン実行委員会

1. サンプルの属性

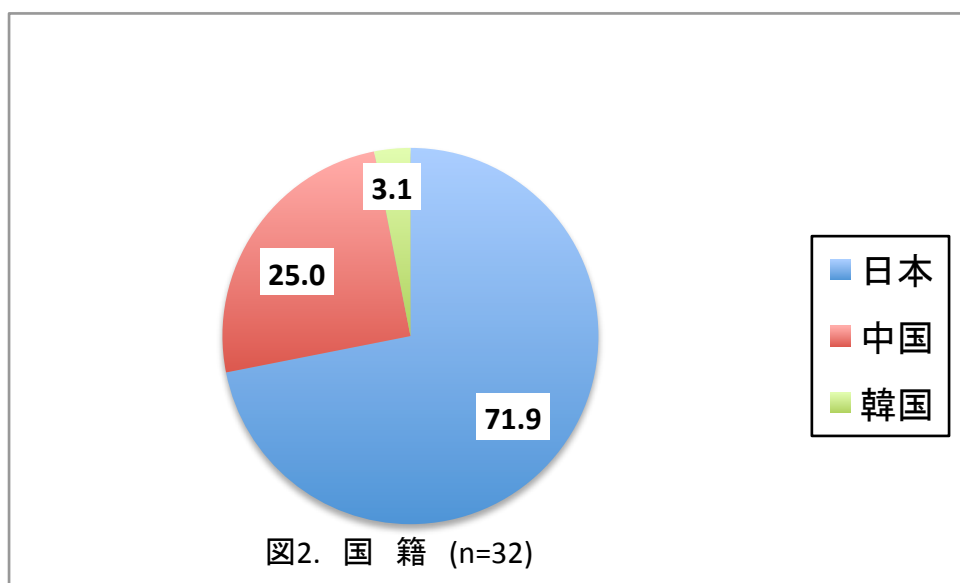
1) 性別

性別は、「男性」が 46.9%、「女性」が 53.1%であり、やや女性の割合が高かった（図 1）。



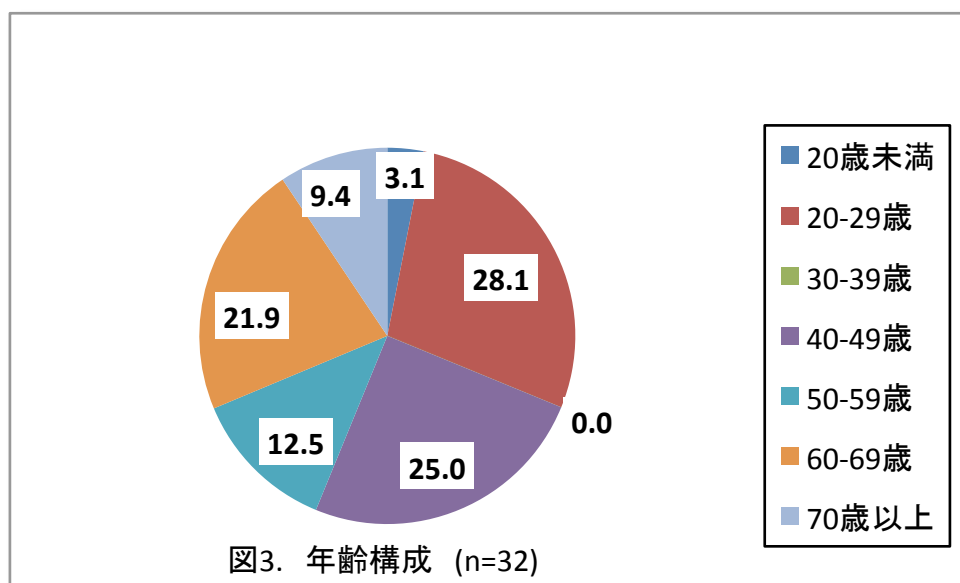
2) 国籍

国籍は、日本が 71.9%、中国が 25.0%、韓国が 3.1%であった（図 2）。日本が 7 割強を占め、次いで中国が多かった。



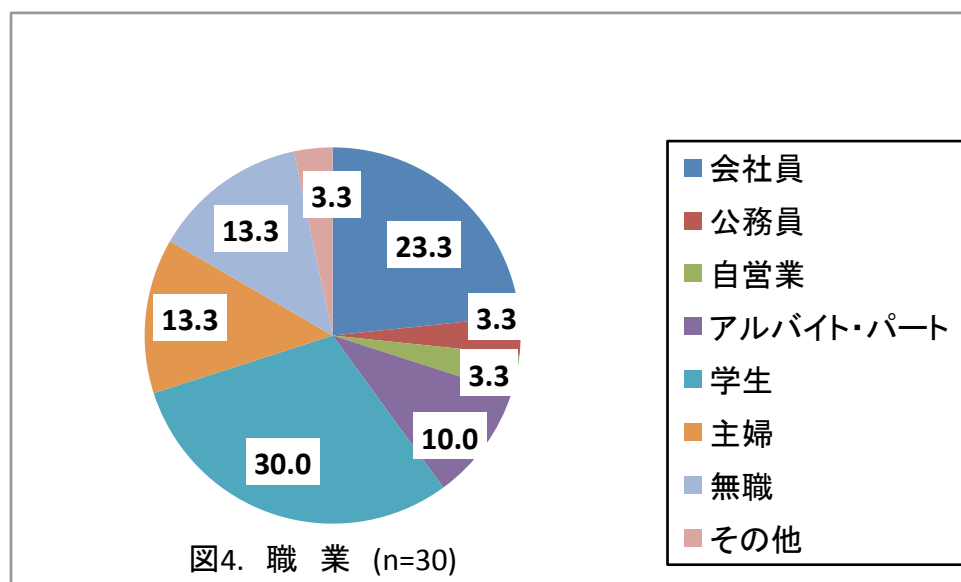
3) 年齢構成

年齢構成は、「20 歳代」が 28.1%と最も多く、次いで「40 歳代」が 25.0%、「60 歳代」が 21.9%であった（図 3）。また、10 歳代～20 歳代の若年層が 31.2%で、60 歳以上の高年層も 31.3%で、ほぼ同じ割合であった。



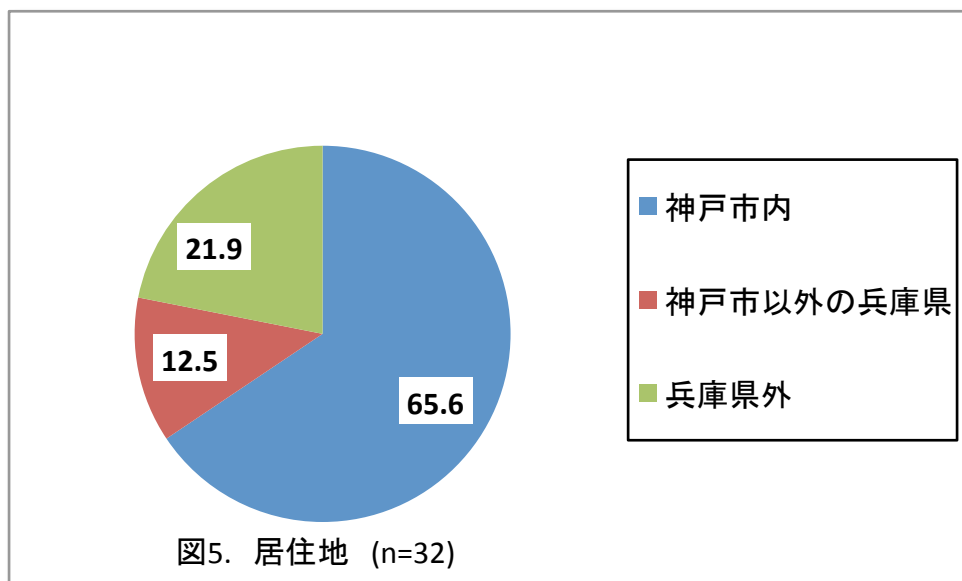
4) 職業

職業は、「学生」が 30.0%で最も多く、次いで「会社員」が 23.3%、「主婦」「無職」が 13.3%であった（図 4）。



5) 居住地

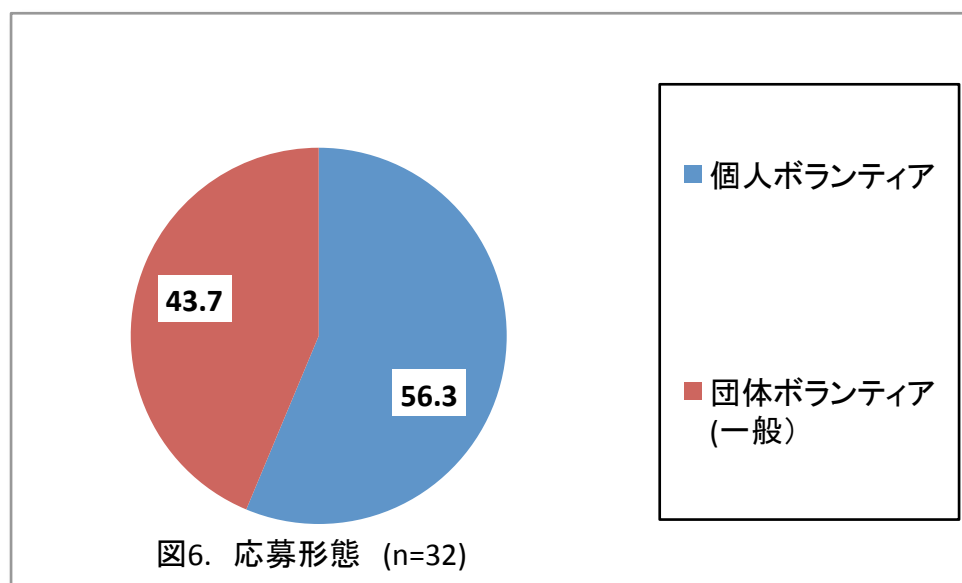
居住地は、「神戸市内」が 65.6%と最も多く、次いで「神戸市以外の兵庫県」が 12.5%、「兵庫県外」が 21.9%であった（図 5）。6 割強が神戸市在住であり、8 割近く（78.1%）が兵庫県在住の参加者であった。



2. 本大会におけるボランティア活動について

1) 応募形態

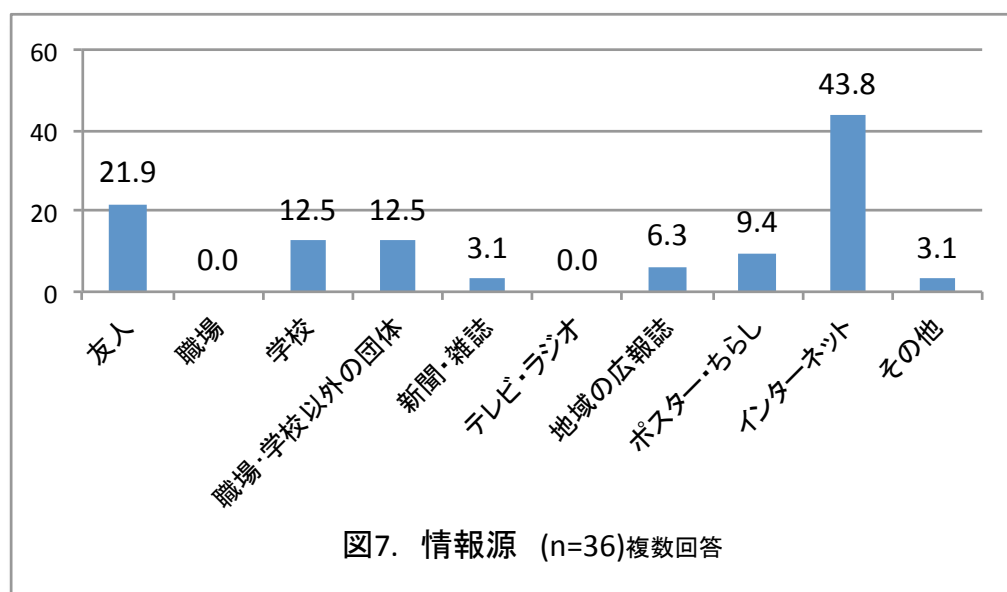
応募形態は、「個人ボランティア」と「団体ボランティア（一般）」のみで、「個人ボランティア」が 56.3%、「団体ボランティア（一般）」43.7%であった（図 6）。



2) 情報源

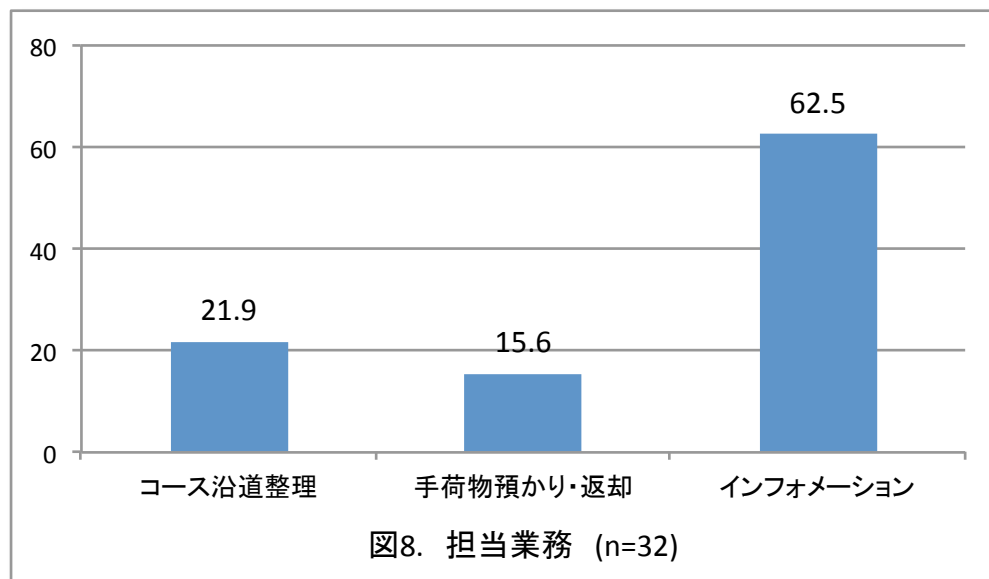
「ボランティアの情報を何で知りましたか？」の問いに、当てはまる番号すべてに○をつけてもらった（複数回答）。「インターネット」が 43.8%と最も多く、次いで「友人」が 21.9%、「学校」「職場・学校以外の団体」が 12.5%であった（図 7）。

インターネットからの情報収集がもっとも多かったことから、業務内容に関する詳細な情報をホームページに載せる必要があると思われる。



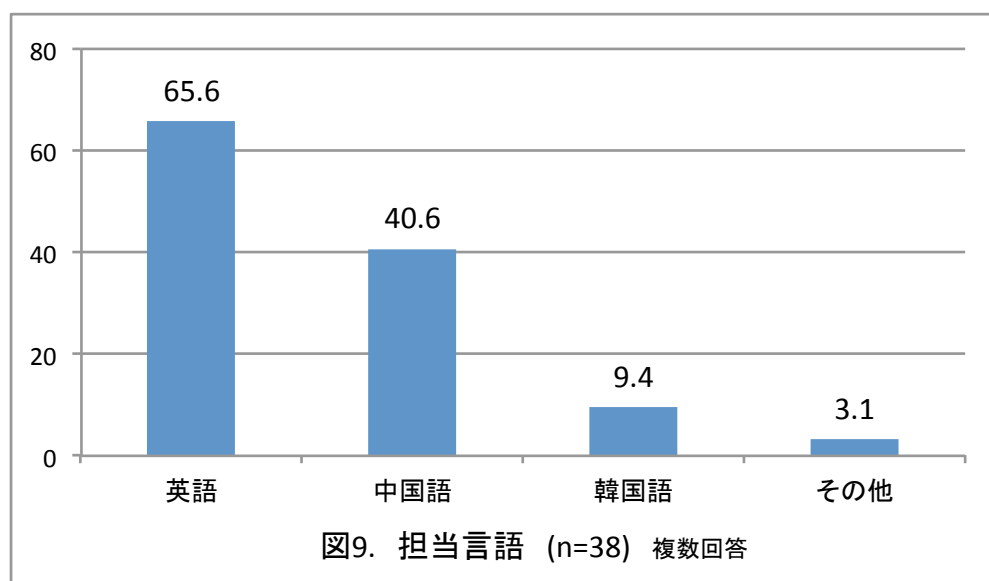
3) 担当業務

担当業務は、「コース沿道整理」「手荷物預かり・返却」「インフォメーション」の3種類である。「インフォメーション」が62.5%と最も多く、次いで「コース沿道整理」が21.9%、「手荷物預かり・返却」が15.6%の順であった（図8）。海外からのランナーに安心して参加してもらえるように、インフォメーションに重点をおいて配置している。また、コース沿道整理は、マラソン中に体調が悪くなったとき、ランナーが不安にならないよう、救護所付近の沿道に語学対応ボランティアを配置し、ランナーの体調等を医師に伝える役割である。



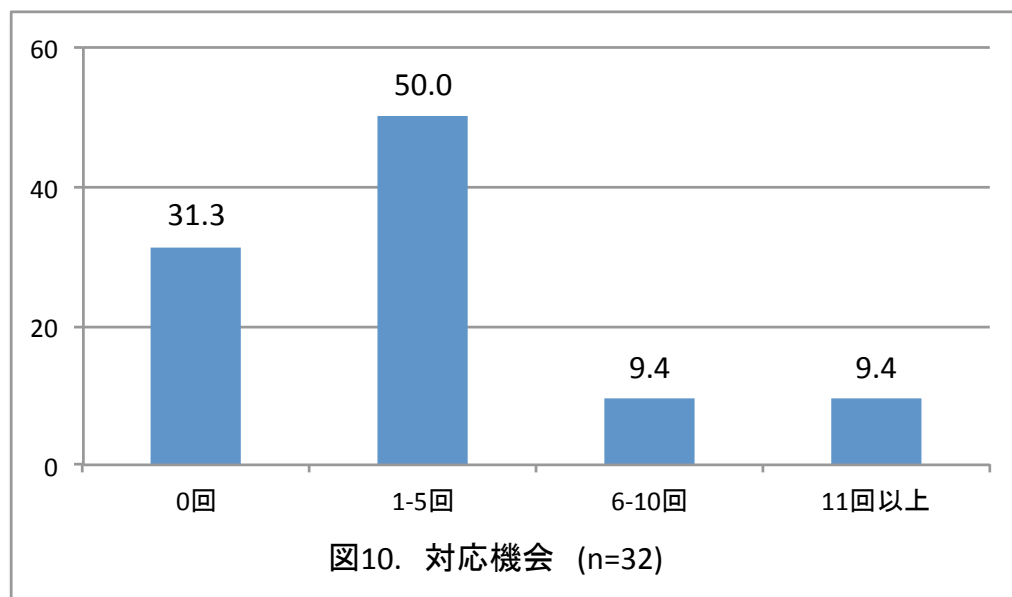
4) 担当言語

担当言語は何だったか、当てはまるものすべてを選択してもらった。その結果、「英語」が65.6%で最も多く、次いで「中国語」が40.6%、「韓国語」が9.4%、その他が3.1%であった（図9）。その他の言語はフランス語であった。また、複数の言語を担当した参加者は、12.5%（n=4）であった。



5) 対応機会

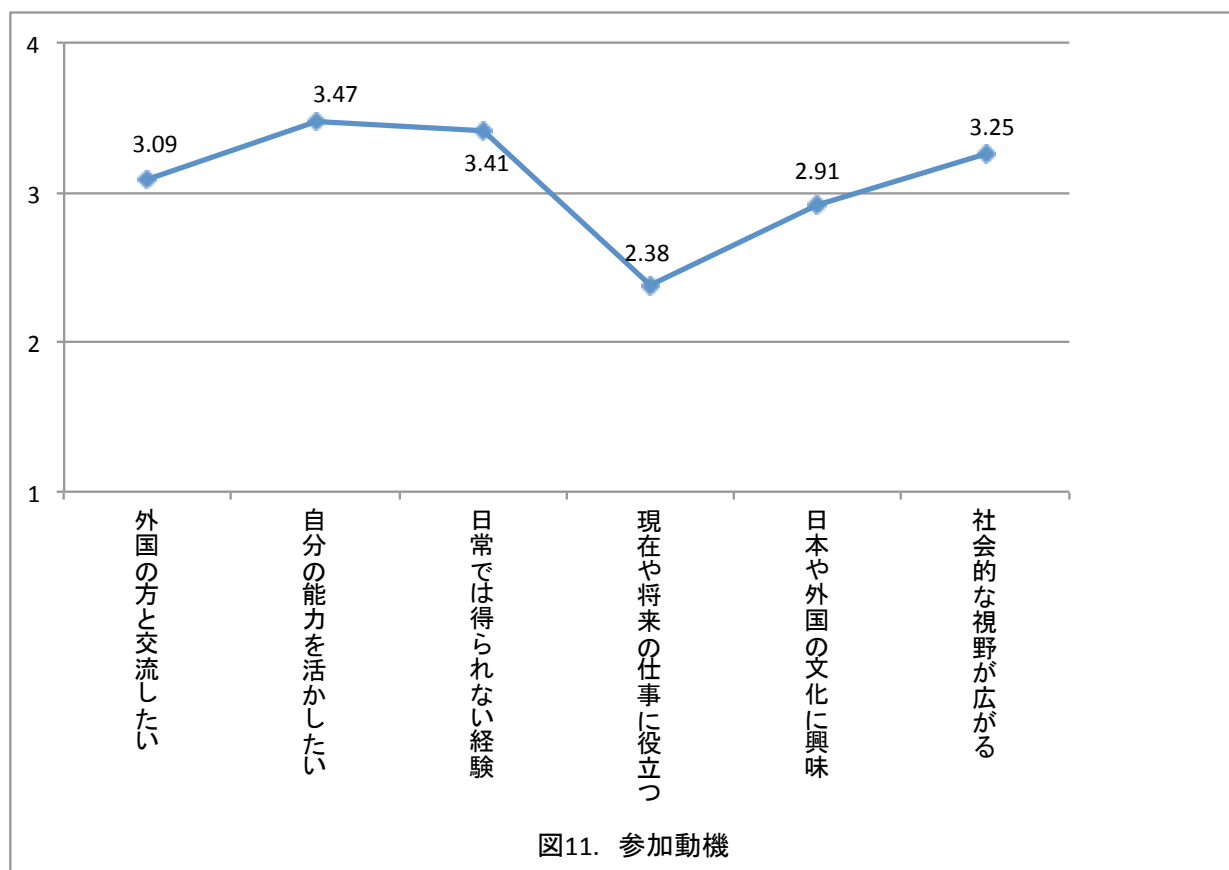
対応機会は、ボランティア中に対応した頻度を質問している。最も多かったのは、「1-5 回」で 50.0%、次いで「0 回」が 31.3%、「6-10 回」「11 回以上」は 9.4%であった（図 10）。約 3 割の参加者が 1 回も対応しなかったのに対し、約 2 割の参加者が 6 回以上の対応機会であったことから、対応機会の差がみられた。担当業務や配置により、対応機会の差があるとしたら、今後は語学対応ボランティアの担当業務やその配置などを精査し、見直していく必要があるのではないかとと思われる。



5) 語学対応ボランティアへの参加動機

ボランティアに参加した動機 6 項目を「1.当てはまらない 2.あまり当てはまらない 3.まあ当てはまる 4.非常に当てはまる」の 4 つの中から回答してもらった。平均値が最も高かったのは「自分の能力を活かしたい」が 3.47、次いで「日常では得られない経験ができる」が 3.41、「社会的な視野が広がる」が 3.25 で高い値を示した。一方、「現在や将来の仕事に役立つ」は 2.38 と低い値を示した（図 11）。

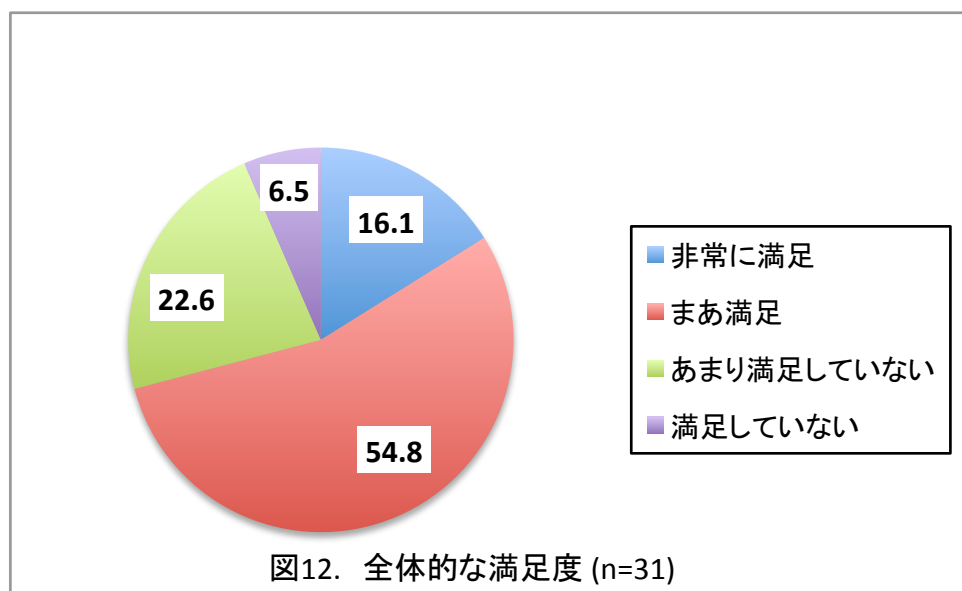
このことから、「自己の能力発揮」「非日常」などのキーワードが挙げられ、日常では得られない経験のなかで、自己の能力を活かしたいという反応が高かった。



6) 全体的な満足度

今回のボランティア全体を通しての満足度を「非常に満足している」「まあ満足している」「あまり満足していない」「満足していない」の4つの中から回答してもらった。「非常に満足している」が16.1%、「まあ満足している」が54.8%、「あまり満足していない」が22.6%、「満足していない」が6.5%であった（図12）。

「非常に満足している」と「まあ満足している」を足した値が70.9%であった。母数が異なるため単純に比較はできないが、今回の一般ボランティアの調査では、この2つを足した値が92.4%であったことから、語学対応ボランティアの満足度は低かったのではないかと考えられる。満足しなかった理由として、「通訳する機会が少ない」「暇だった」などの意見が述べられている（満足度の理由を自由記述、巻末を参照）。先述した対応機会（p46）との関わりが大きいと思われ、参加者の能力を十分に活かせるような配置や機会を設けることが満足度を高めるポイントであると思われる。

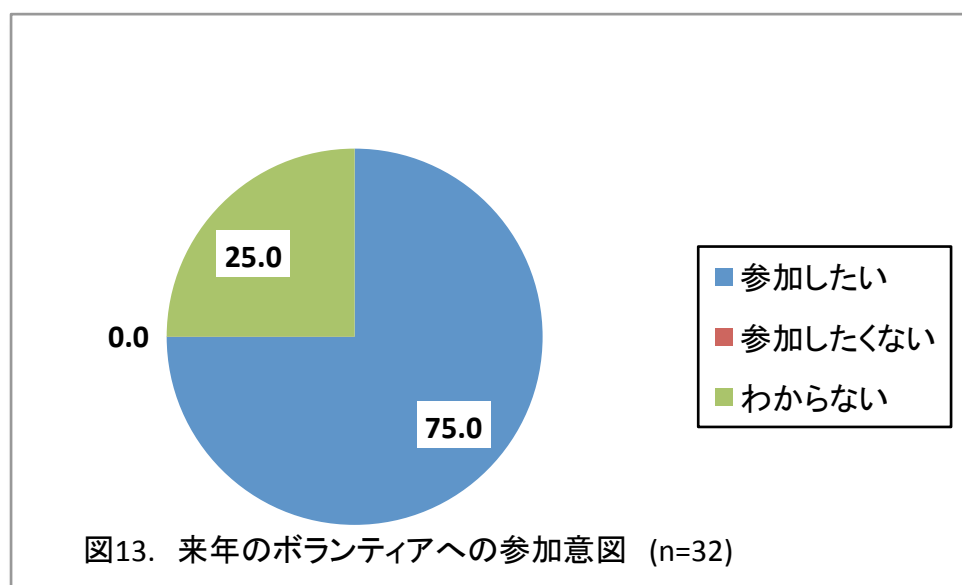


3. 次回大会への参加意図とこれまでの活動状況

1) 来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図

来年の神戸マラソンボランティアへの参加意図を「1.はい 2.いいえ 3.わからない」の3つの中から回答してもらった。「はい」＝「参加したい」が75.0%、「いいえ」＝「参加したくない」が0%、「わからない」が25.0%であった（図13）。

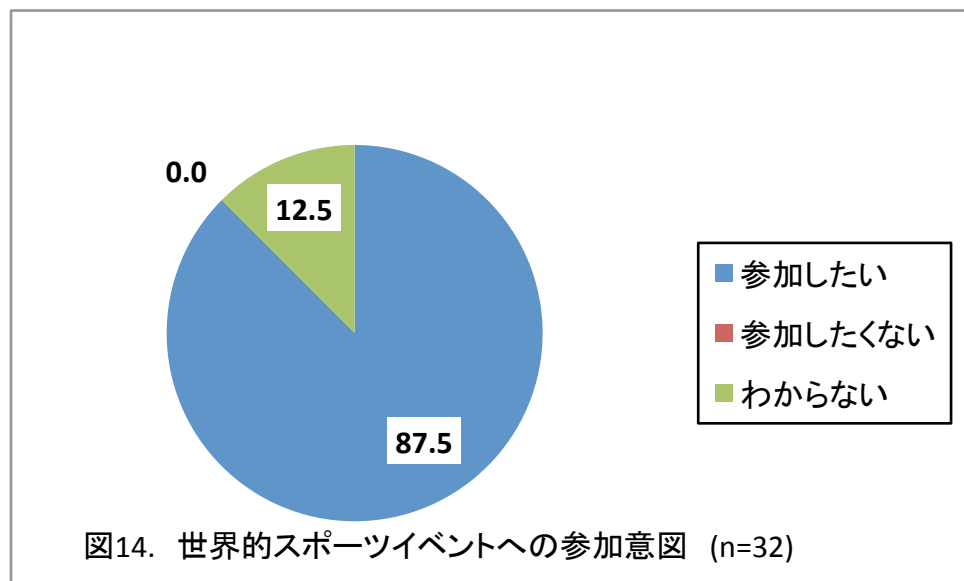
参加したくない人はおらず、来年もまた参加したい人が75%と高い値を示した。母数が異なるため単純に比較はできないが、今回の一般ボランティアの調査では、また参加したい人が48.8%であったことから、語学対応ボランティアはかなり高い割合だと思われる。また、前項の満足度は低かったことから、語学対応ボランティアにおいて、満足度と再参加意図は関連していることが明らかになった。



2) 世界的スポーツイベントへの参加意図

兵庫県では、ラグビーワールドカップや関西ワールドマスタースゲームなど世界的なスポーツイベントが開催される予定である。そこで、「このようなスポーツイベントが開催されたら、語学対応ボランティアとして参加したいですか」という設問を設けた。参加意図を「1.はい 2.いいえ 3.わからない」の3つの中から回答してもらった。「はい」＝「参加したい」が87.5%、「いいえ」＝「参加したくない」が0%、「わからない」が12.5%であった（図14）。

来年の神戸マラソンの参加意図よりも更に高い値を示し、世界的なスポーツイベントへの興味・関心の大きさが伺える。



3) 神戸マラソンボランティア活動の経験

神戸マラソンボランティア活動回数を「1. 今回が初めて 2. 2回目 3. 3回目 4. 4回目 5. 5回目 6. 6回目」で回答してもらった。今回が初めての参加であった人が 59.4%、2 回目が 9.4%、3 回目が 15.6%、4 回目が 0%、5 回目が 6.3%、6 回目が 9.4%であった（図 15）。

約 6 割が初めての参加者であり、約 4 割が複数回の参加者であった。先述の再参加意図と同様に、継続意欲がわくようなボランティア活動となるよう機会や内容の充実を図っていくことが重要である。

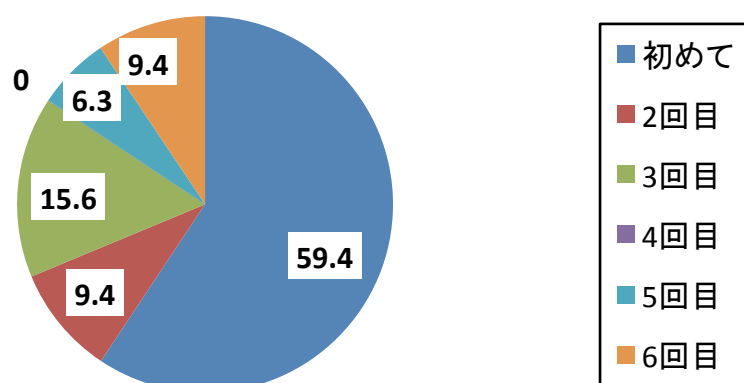


図15. 神戸マラソンボランティア活動の経験 (n=32)

8-1. 「語学対応ボランティアの満足度に対する理由」(自由記述)

○ 満足群

楽しかった

- ・ 語学対応の機会は少なかったが、楽しい体験だった。(20 歳代、男性)
- ・ ランナーが笑顔で返してくれるので楽しかった。語学をもっと磨こうと反省。(20 歳未満、女性)
- ・ 6 回目の参加。沿道の皆さま達とコミュニケーションやおもてなしを楽しんでいる。(50 歳代、男性)
- ・ 語学を使う機会は一度もなかったが、ボランティア自体は楽しく活動できたので満足。(20 歳代、女性)
- ・ 外国人は少なかったが、楽しい時間が過ごせた。(70 歳代、男性)

充実感

- ・ 語学が活かされたかという疑問だが、対応機会が 1 回あったので満足。(40 歳代、男性)
- ・ より積極的にランナー対応をすることができた。(40 歳代、男性)
- ・ ランナーから素晴らしい笑顔をもらい、達成感や心の温かさを感じた。(40 歳代、女性)
- ・ 日本の方といっぱい喋ることができた。外国人も助けることができて嬉しかった。(20 歳代、女性)
- ・ 自分の能力を活かすことができた。(70 歳以上、男性)
- ・ ランナーを応対できて非常に満足。(20 歳代、女性)
- ・ 神戸の文化活動に貢献できて良かった。(20 歳代、男性)
- ・ 外国人が少なく、最初からとても暇だったが、最後の 1 時間で何人かに対応し、自分の能力を発揮できたと感じた。(20 歳代、男性)
- ・ 神戸の大きなイベントに参加できて、嬉しく思う。(60 歳代、男性)
- ・ 5-6 人の中国人を案内でき、理解してもらえて満足。(60 歳代、男性)

感動・感謝

- ・ 知らないことをたくさん知ることができて感謝。楽しい 1 日だった。(20 歳代、女性)
- ・ 周りのベテランの方々がとても親切で、ありがたかった。(40 歳代、女性)

貴重な体験

- ・ 他のボランティアと交流でき、そしてランナーにも喜んでもらえ、良い経験ができた。(40 歳代、女性)
- ・ 沿道整理よりもスタート地点での案内の方が、はるかに興味深くおもしろい経験だった。(60 歳代、男性)

その他

- ・ 外国の方がヘルプデスクやインフォメーションに来ないことは、事務局の案内ができている証なので、結果的にはよかった。(40 歳代、男性)

● 不満足群

ボランティアの内容（機会・頻度）

- ・ 欧米からのランナーが少なく、喋る機会が少ない。(60 歳代、女性)
- ・ 韓国人ランナーが少なく、使う機会がなかった。(50 歳代、女性)
- ・ 英語圏の方が少なく、出番が少なかった。(60 歳代、男性)
- ・ 通訳をする機会があまりなかった。(20 歳代、男性)
- ・ 外国人選手が予想より低かった。(20 歳代、女性)
- ・ インフォメーションまで来る外国人が少なく、少し暇だった。(20 歳代、男性)
- ・ 派遣された場所では必要がなかったため、あまり満足していない。(50 歳代、女性)
- ・ インフォメーションでは英語の語学対応をする機会がなかった。(40 歳代、女性)
- ・ 語学を活かせるような場面がなかった。(50 歳代、女性)

スタッフ・リーダー

- ・ ボランティアリーダーからのきちんとした指示がない。(20 歳代、女性)

○ 要望群

事前情報

- ・ 業務内容が事前にわかれば準備でき、もっとスムーズに対応できたと思う。(40 歳代、女性)

8-2. 「語学対応ボランティア活動を終えての感想、意見、要望」(自由記述)

○ 満足群

充実感

- ・ 英語での案内は 3-4 名だったが、語学に関わらず選手のお世話ができて嬉しい。(60 歳代、男性)
- ・ 仲間とともに活動できること、問い合わせに対応した時の相手の姿に喜びを感じる。(70 歳代、男性)
- ・ 同じ語学ボランティアの留学生とも仲良くなり、充実した時間であった。(60 歳代、男性)

貴重な体験

- ・ みんなと一緒にこの大会に貢献することができて、良い体験になった。(20 歳代、男性)
- ・ 裏方の人々の大変さ、心遣いがよく分かって、とてもよい経験になった。(40 歳代、女性)

次回も参加

- ・ 本当は当選してマラソンを走りたいが、走れなくてもボランティアをすることが楽しみになった。(40 歳代、男性)
- ・ ボランティアの熱心さに感心、また参加したい。(20 歳代、女性)
- ・ 語学対応にこだわらず、機会があればボランティアとしてイベントに参加したい。(40 歳代、女性)

その他

- ・ 今年は平和でした。(60 歳代、女性)

● 不満足群

ボランティアの内容 (機会・頻度)

- ・ 本当に通訳を必要としているのでしょうか？(60 歳代、男性)
- ・ マラソン当日のインフォメーションの人員が多すぎる。(60 歳代、男性)

スタッフ・リーダー

- ・ ボランティアリーダーが何も知らないし、リーダーの役割を果たせているとは思えない。(50 歳代、女性)
- ・ ボランティアリーダーはマニュアルに書いてあることも把握できていない、不要である。(60 歳代、男性)
- ・ ボランティアリーダーは、知識が不十分で、しかもリーダーシップもない。(20 歳代、男性)
- ・ 最終責任者が警備の方なのかリーダーなのか、指示待ちの方としては不安だった。(50 歳代、女性)

事前情報

- ・ 具体的にどのように語学を使うのかがわからず、応募しにくかった。(20 歳代、女性)

その他

- ・ 長時間立ち続けて大きな声を出すのは、体力的にきつかった。(40 歳代、女性)
- ・ スタート会場、インフォメーションで、自分は第 1 ウェーブか第 2 ウェーブかという質問が多かった。(20 歳代、男性)
- ・ 交通費が自腹だったが、少し高かった。(20 歳代、女性)

○ 要望群

運営

- ・ 3 日ボランティアに参加したが、受付と手荷物係。一度もランナーが走る姿を見られなかった。3 日間の参加者はコース沿道に優先的にまわして欲しい。(60 歳代、男性)
- ・ もっとボランティアとして貢献したいので、今後は一人一人の任務をバランスよく分担して欲しい。(20 歳代、女性)
- ・ せっかく語学ボランティアとして参加しているのだから、需要がある場所に配置して欲しい。(50 歳代、女性)
- ・ 主な設備に英語表記があればよい。(40 歳代、男性)
- ・ 海外ランナーをある程度かためておくと、手荷物はそのトラックに通訳も配置できるのではないか。(40 歳代、女性)
- ・ 毎年準備されている通訳用の黒のビブスがなかった。(50 歳代、男性)

事前情報

- ・ 完走証に関する質問が多かった。ランナーには WEB から印刷できると案内したが、完走証のイメージ画像があるとよい。(40 歳代、男性)
- ・ 救護所、トイレ、関門など事前に説明会資料にあれば、安心して対応できると思う。(40 歳代、男性)

その他

- ・ インターネットアンケートにしたらよいと思う。(50 歳代、女性)
- ・ マラソン当日インフォメーションに警察関係者がいない、説明会では居ると説明があったはず。(60 歳代、男性)
- ・ ボランティア参加者に水を配って欲しい。(20 歳代、女性)
- ・ 若い人にどんどん活躍して欲しい。就職にも有利になるようにとりはからってほしい。(70 歳以上、男性)

『神戸マラソン 2016』
ボランティアに関する調査報告書
(Research report on a study of volunteers at Kobe Marathon 2016)

2017 年 1 月発行

編集 兵庫体育・スポーツ科学学会
ひょうご地域スポーツ振興プロジェクト
「神戸マラソン 2016 ボランティア調査グループ」

発行 神戸マラソン実行委員会